学校法人 中越学園
長岡大学

「地（知）の拠点整備事業」（大学 COC）
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム

文部科学省
地（知）の拠点

2014 年度 長岡大学

今瀬政司ゼミナール

とちお祭への裏方参画と調査・情報発信 報告書

～長岡・栃尾地域を元気にするために～

（ゼミ生）五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、相山祐輝、太刀川健太朗

（教員）長岡大学経済経営学部 准教授　今瀬 政司

http://sicnpo.jp/imase-nagaokauniv/

はじめに

とちお祭への裏方参画と調査・情報発信

～長岡・栃尾地域を元気にするために～

長岡大学准教授／ゼミ担当教員　今瀬 政司

今瀬政司ゼミナールでは、実社会の現場における実践的な活動や調査等のノウハウを学び、社会の中で「生きる力」の基礎を身につけ、地域（社会）の活性化に貢献することを目的に活動しています。

私は、教員がレールを敷いて、その上に学生を乗せて走らせるといった授業方法ではなく、社会をモノサシにして、学生の自発力・自主性・自律性を育み、学生が自らの生き方・働き方を創造するような教育を行いたいと考えています。2014 年度の今瀬ゼミでは 4 月～6 月に、「自治と協働による地域づくり」という大テーマのもと、ゼミ生たちが自ら取組み内容を検討して、様々な関係機関に事前取材・相談を行い、その過程で企画案を何回も更新して、試行錯誤を重ねた上で企画書を立案しました。

そして、6 月から翌 2 月にかけて、とちお祭の「裏方」として現場活動、調査、提言、情報発信等を行い（現場活動は 30 日間超）、栃尾活性化への貢献をめざしました。具体的な取組みは以下です。

1 つ目として、6 月～翌 1 月に、とちお祭の歴史等を調査すると共に、第 60 回とちお祭（8 月 23・24 日）の「裏方」スタッフと「表方」参加者としての現場活動を通じて、その実態を調査しました。

2 つ目として、6 月～11 月に、とちお祭の各種会合等への参加と取材を行いました（結団式、仁和賀部会、全日本樽みこし綱引き選手権大会説明会、安全祈願祭、スタッフ会合、花火大会反省会、他）。

3 つ目として、6 月～8 月に、とちお祭の現場作業と取材を行いました（提灯・のぼり設置等の事前準備、チラシ配布等の事前ＰＲ活動、会場設営等の前日準備、当日の運営、会場等の後片付け）。

4 つ目として、8 月に、大花火大会の現場作業と取材を行いました（花火の打上げ場所の設営準備（枯れ草清掃、テント・防火水槽設置等）、見学側の設営準備、打上げの点火合図、燃え殻回収等の片付け）。

5 つ目として、8 月の祭当日に、イベントの「表方」として参加と取材を行いました（「全日本樽みこし綱引き選手権大会」に出場して準優勝。「仁和賀行進」で栃尾本町区のパフォーマンスに参加）。

6 つ目として、とちお祭への提言を検討し、10 月以降、様々な機会で発表しました。

7 つ目として、10 月の長岡大学悠久祭で、とちお祭のイベント「仁和賀行進」を出前開催しました（栃尾本町区の住民の方々と今瀬ゼミで合同「仁和賀隊パフォーマンス」を披露して栃尾をＰＲした）。

8 つ目として、10 月～翌 2 月に、今瀬ゼミで「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」事業のパネルを作成して、長岡市内で巡回「パネル展」を開催し栃尾をＰＲしました（長岡大学悠久祭、長岡市栃尾産業交流センターおりなす、アオーレ長岡（市本庁舎）。3 月以降も他市内各所で開催予定）。

9 つ目として、11 月以降、今瀬ゼミの情報発信として、今瀬政司研究室ホームページでゼミ活動報告等を随時掲載しています（http://sicnpo.jp/imase-nagaokauniv/）。その他、地域活性化プログラム成果発表会、「栃尾タイムス」への記事掲載など、ゼミ活動報告等を通じて栃尾をＰＲしました。

こうした今瀬ゼミの取組みにおいては、アドバイザーの荒木 隆氏、安達一啓氏のほか、長岡大学ボランティア学生、長岡市役所（栃尾支所商工観光課、市民協働推進室、他）、栃尾観光協会、栃尾本町区（住民）、栃尾煙火協会、栃尾商工会、その他様々な関係機関等にご協力を頂き、協働で取り組むことで、「とちお祭」と栃尾の活性化に一定程度の貢献を果たすことができました。ゼミ生（五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、相山祐輝、太刀川健太朗（３年生、五十音順））とともに、改めてここに深く感謝を申し上げます。そして、今後、長岡・栃尾地域が一層発展していくことを祈念しています。

平成 27 年 3 月

学校法人 中越学園
長岡大学

「地（知）の拠点整備事業」（大学 COC）
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム

文部科学省 地(知)の拠点

平成26年度 学生による地域活性化プログラム

とちお祭への裏方参画と調査・情報発信

～長岡・栃尾地域を元気にするために～

■ゼミ担当教員
今瀬 政司

■ゼミ学生：五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、相山祐輝、太刀川健太朗（３年生、五十音順）
■アドバイザー：荒木 隆（長岡市栃尾支所商工観光課）、安達一啓（長岡市市民協働推進室）

■今瀬政司ゼミナールの目的：「自治と協働による地域づくり」として、実社会の現場における実践的な活動や調査等のノウハウを学び、社会の中で「生きる力」の基礎を身につけ、地域の活性化に貢献すること
■成果：とちお祭の「裏方」として活動、調査、提言、情報発信等を行い（現場活動：30 日間超）、栃尾の活性化に貢献

■事前取材とゼミ活動の企画立案における試行錯誤【4～6 月】

・ゼミ生が自ら企画を検討して立案。
・企画書の第１案として「長岡駅から過疎地域を繋ぐ」を作成後、様々な関係機関に訪問して事前取材・相談。
・その過程で、具体的に「栃尾」、「とちお祭」、「裏方」に焦点を当てた。
・企画書を何回も更新し、「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」として最終の企画書を立案した。

■「とちお祭」の歴史と現状の調査【6 月～翌１月】

①「とちお祭」の歴史と経済的背景を文献資料と取材により調査
②第 60 回とちお祭の「裏方」スタッフと「表方」参加者としての現場活動を通じて、実態を取材・記録して調査

■祭の会合等への参加と取材【6 月～11 月】

①結団式 ②安全祈願祭 ③仁和賀部会
④仁和賀行進「栃尾本町」準備会
⑤全日本樽みこし綱引き選手権大会説明会
⑥祭りスタッフ打合せ会
⑦大花火大会反省会 等

■祭の現場作業と取材（設営準備・当日運営・片付け）【6 月～8 月】

①提灯・のぼり設置等の事前準備
②チラシ配布等の事前ＰＲ活動
③会場設営等の前日準備
④当日の運営
⑤会場等の後片付け

■大花火大会の現場作業と取材（設営準備・打上・片付）【8 月】

①花火の打上げ場所の設営（枯れ草清掃、テント・防火水槽・照明・看板の設置等） ②花火の見学側の設営 ③打上の点火合図 ④花火の燃え殻回収、テント・防火水槽等の片付け

■祭のイベント（当日の表方）への参加と取材【8 月】

①「全日本樽みこし綱引き選手権大会」に出場。準優勝！
②「仁和賀行進」で栃尾本町区のパフォーマンス（ダンス・仮装等）に参加

■今瀬ゼミの「とちお祭」への提言【10 月】

提言１ とちお祭の「裏方さん」（特に、若い人）が増えるようにすること
提言２ 「全日本樽みこし綱引き選手権大会」を栃尾以外に出前開催して魅力をＰＲすること
提言３ 地元の名物料理や家庭料理等の屋台を多く出すこと

■とちお祭のイベント「仁和賀行進」の出前開催【10 月】

長岡大学「悠久祭」で栃尾本町区の住民の方々と今瀬ゼミで、合同「仁和賀隊パフォーマンス」を披露（校舎を背に一緒に踊った）

※栃尾のＰＲ活動

■今瀬ゼミ活動の長岡市内巡回「パネル展」開催【10 月以降】

＜開催会場＞ ①長岡大学「悠久祭」
②長岡市栃尾産業交流センターおりなす
③アオーレ長岡（市本庁舎）
④その他、市内各所で開催
※栃尾のＰＲ活動

■今瀬ゼミの情報発信【11 月以降】

①今瀬政司研究室ホームページ（今瀬ゼミの活動報告等を随時掲載）

http://sicnpo.jp/imase-nagaokauniv/

②地域活性化プログラム成果発表会
③「栃尾タイムス」に記事掲載
※今瀬ゼミの活動報告等の情報発信を通じて栃尾と「とちお祭」をＰＲ。栃尾への誘客等で地域活性化をめざす

◆「第 60 回 とちお祭」の概要

◇日程：2014 年 8 月 23（土）・24 日（日）
◇内容：全日本樽みこし綱引き選手権大会／仁和賀行進／大花火大会／大民踊流し／みこし渡御／その他
◇とちお祭事務局：
栃尾観光協会
（TEL）0258-51-1195
（URL）http://tochiokankou.jp

◆今瀬ゼミの協力機関等（協働）

◇長岡大学ボランティア学生
◇長岡市役所（栃尾支所商工観光課・地域振興課、市民協働推進室、政策企画課、地域振興戦略部）
◇栃尾観光協会 ◇栃尾本町区（住民）
◇栃尾煙火協会 ◇栃尾商工会
◇NPO 法人市民協働ネットワーク長岡
◇NPO 法人フォーラム栃尾熱都
◇長岡市栃尾地域 NPO 連絡協議会
◇山の暮らし再生機構栃尾サテライト

2014 年度 長岡大学　今瀬政司ゼミナール

とちお祭への裏方参画と調査・情報発信

～長岡・栃尾地域を元気にするために～

目　次

本　編

1. 今瀬政司ゼミナール「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」の目的と概要 ----1

1.1 今瀬政司ゼミナールの目的・概要

1.2 「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」事業の概要

2. 長岡・栃尾地域の誇り「とちお祭」の概要 ----------4

2.1 「とちお祭」の歴史と経済的背景

2.1.1 「とちお祭」の 60 年の歩み

2.1.2 旧繊維まつりと産業振興

2.2 「第 60 回とちお祭」（2014 年）の概要

2.2.1 祭りの概要

2.2.2 各イベントの実施概況

2.2.3 祭りの担い手

3.今瀬政司ゼミナールの「とちお祭」への道

～「第 60 回 とちお祭」における裏方参画と調査・情報発信～ ----------10

3.1 今瀬ゼミの企画立案における試行錯誤

3.1.1 企画書(第１案):「長岡駅から過疎地域を繋ぐ」

3.1.2 企画書(中間案):「栃尾」に焦点を当てる！

3.1.3 企画書(最終案):「とちお祭」のみに焦点を当てる！～とちお祭への参画決定～

3.2 今瀬ゼミの「第 60 回 とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」

3.2.1 結団式

3.2.2 仁和賀部会

3.2.3 仁和賀行進に関する「本町」への取材

3.2.4 全日本樽みこし綱引き選手権大会の説明会

3.2.5 安全祈願祭

3.2.6 「アオーレ長岡」でのとちお祭の事前ＰＲ活動

3.2.7 とちお祭の事前準備

3.2.8 とちお祭の前日準備①（祭り全体）

3.2.9 とちお祭の前日準備②（大花火大会の事前準備）

3.2.10 とちお祭１日目

3.2.11 とちお祭２日目① ～全日本樽みこし綱引き選手権大会～

3.2.12 とちお祭２日目② ～仁和賀行進～

3.2.13 とちお祭２日目③ ～大花火大会～

3.2.14 とちお祭の後片付け

3.2.15 とちお祭のアンケート調査結果

3.2.16 今瀬ゼミから「とちお祭」への３つの提言
3.2.17 とちお祭のイベントの「出前開催」（ＰＲ活動）
3.2.18 とちお祭大花火大会反省会
3.2.19 学生による地域活性化プログラム成果発表会
3.2.20 今瀬ゼミ活動の「栃尾タイムス」での記事掲載
3.2.21 長岡大学悠久祭と長岡市内各所での巡回「パネル展示会」開催
3.2.22 「とちお祭」と今瀬ゼミ活動のホームページでの情報発信

資料編

4.今瀬ゼミ活動の「栃尾タイムス」掲載記事 ----------31
5.今瀬政司ゼミナール「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」展示パネル ------33
6.今瀬政司ゼミナール「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」成果発表会資料 --54

■今瀬ゼミ生一同（主な活動内容／主な報告書作成担当）

12Ｅ001 五十嵐信彦　（活動全般／3 章の部分執筆）
12M016 澤井芳秀　（活動全般／2・3・5・6 章の部分執筆、全体編集）
12M017 須田一聖　（活動全般、コーディネート／3 章の部分執筆）
12M019 相山祐輝　（活動全般／3 章の部分執筆）
12M021 太刀川健太朗（活動全般／2・3・5・6 章の部分執筆）
（全３年生、五十音順）

■今瀬ゼミ担当教員（教育、監修）

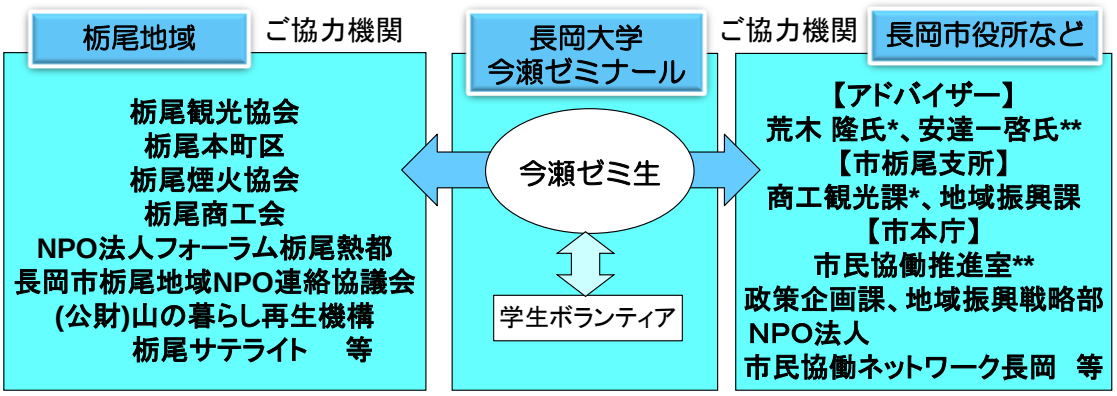
長岡大学経済経営学部 准教授　今瀬政司
TEL：0258-39-1600(代)、研究室 0258-39-1907(直)、E-mal：imase@nagaokauniv.ac.jp

■今瀬政司研究室ホームページ（ゼミの活動報告等を随時掲載）

http://sicnpo.jp/imase-nagaokauniv/

■協力者（協働）

〔長岡大学ボランティア学生〕木島俊久、胡 波、中島なつ美、宮崎由貴（五十音順）
〔アドバイザー〕
荒木 隆 氏　長岡市栃尾支所商工観光課 観光係長
安達一啓氏　長岡市市民協働推進室市民協働班 主査
〔協力機関（協働）〕



1. 今瀬政司ゼミナール「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」の目的と概要

1.1 今瀬政司ゼミナールの目的・概要

今瀬政司ゼミナールの授業目的は、授業を通して、実社会の現場における実践的な活動や調査等のノウハウを学び、社会の中で「生きる力」の基礎を身につけ、地域（社会）の活性化に貢献することである。

今、社会では市民（ＮＰＯ・地縁組織、企業、大学等）と行政が、「自治と協働による地域づくり」を推進することで、地域の様々な社会的課題の解決を図り、地域を活性化していこうとする取組みが重要となっている。

そこで、今瀬ゼミでは 2014 年度、「自治と協働による地域づくり」という大テーマの中で、ゼミ生が自ら具体的な事業テーマの企画書を立案し、地域（実社会）の人たちとの調整を行い、スケジュールや役割分担の計画を立てて、実社会の現場において、活動、調査研究、提言、情報発信、社会貢献活動等の実践的な取組みを行った。そして、その成果を報告書や展示パネル等の形で取りまとめて公表した。

1.2 「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」事業の概要

長岡市栃尾地域で開催の「とちお祭」（2014 年 8 月 23・24 日）において、長岡大学の今瀬政司ゼミナール等の学生たちが裏方として参画した。

2014 年 4 月のゼミ授業の開始以降、参画の企画立案から、事前準備の作業協力、当日の運営協力、後片付けの協力までを「とちお祭」の裏方として参画して、地元の方々と協働で取組みを行った。

また、それと並行して、裏方として参画するからこそ分かる「とちお祭」の実態を調査して取りまとめた。実態調査では、祭りそのものはもとより、祭りに関わる地元の人々の様子、祭りを通して見える地域の素晴らしさと抱える課題などについて、準備から当日、後片付けまでの段階で取材・記録した。

そして、祭りの裏方としての参画と調査から得られた報告成果を、展示パネル、報告書、小レポート、写真・映像などのツールにして、長岡大学「学生による地域活性化プログラム成果発表会」のほか、学園祭（悠久祭）や市内の公共施設（長岡市栃尾産業交流センターおりなす、シティホールプラザ アオーレ長岡）でのパネル展示、ならびにホームページ、新聞記事掲載などで情報発信を行った。

そうした情報発信による栃尾と「とちお祭」の広報ＰＲにより、栃尾への誘客をめざすなど地域活性化に貢献できるように努めた。

とちお祭のメイン会場で今瀬ゼミとボランティア学生が集合写真を撮影

■今瀬政司ゼミナール「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」の活動記録

月日			「とちお祭」の主な全体的な取組み	今瀬政司ゼミナールの主な活動内容 （2014年4月～翌2月）	学外
12月			とちお祭の次回の日程決定		
1月 ～3月			各地区・各団体への日程等の連絡 「オープニングイベント」の学校・幼稚園等への出演依頼		
4月	14日	(月)		定例ゼミ授業（企画書立案等）	
	21日	(月)		定例ゼミ授業（企画書立案等）	
	28日	(月)		定例ゼミ授業（企画書立案等）	
5月	12日	(月)		定例ゼミ授業（企画書立案等）	
	19日	(月)		定例ゼミ授業（企画書立案等）	
	21日	(水)		長岡市政策企画課・市民協働推進室、NPO法人市民協働ネットワーク長岡に協力依頼（今瀬）	市本庁
	26日	(月)		定例ゼミ授業（企画書立案等）	
	29日	(木)		長岡市政策企画課・市民協働推進室・地域振興戦略部に協力依頼（今瀬）	市本庁
6月	2日	(月)		定例ゼミ授業（企画書立案等）	
	3日	(火)	「第1回仁和賀部会」	長岡市地域振興戦略部に事前取材・企画相談	市本庁
	9日	(月)		長岡市栃尾支所地域振興課に事前取材・企画相談	栃尾
	10日	(火)	「大花火大会」の協賛募集会議	ゼミ打合せ会（企画書立案等）	
	中旬		「大花火大会」の寄附金の依頼状送付・調整作業		
	16日	(月)		長岡市栃尾支所商工観光課（荒木様にアドバイザー依頼）と山の暮らし再生機構栃尾サテライトに事前取材・企画相談	栃尾
	17日	(火)	「第2回仁和賀部会」	とちお祭「第2回仁和賀部会」に出席＆取材	栃尾
	18日	(水)	「全日本樽みこし綱引き選手権大会」委員会		
	23日	(月)		長岡市市民協働推進室（安達様にアドバイザー依頼）に事前取材・企画相談	市本庁
	24日	(火)	「オープニングイベント」説明会		
	30日	(月)		定例ゼミ授業（とちお祭の裏方参画の進め方検討等）	
7月	4日	(金)	「とちお祭結団式」	とちお祭「結団式」に出席＆取材	栃尾
	7日	(月)		定例ゼミ授業（とちお祭の裏方参画の進め方検討等）	
	8日	(火)	「大花火大会」の寄附金募集の締切		
	14日	(月)		定例ゼミ授業（とちお祭の裏方参画の進め方検討等）	
	16日	(水)		栃尾観光協会と打合せ会（スケジュール・役割分担等調整）	栃尾
	18日	(金)	「大民踊流し」「みこし渡御」「仁和賀行進」参加申込の締切		
	中旬		とちお祭ポスター完成、送付、掲示依頼		
	21日	(月)		定例ゼミ授業（とちお祭の裏方参画の進め方検討等）	
	25日	(金)	「第3回仁和賀部会」	とちお祭「第3回仁和賀部会」に出席＆取材	栃尾
	25日	(金)	「全日本樽みこし綱引き選手権大会」参加申込の締切		
	27日	(日)	「ほだれ神輿」への栃尾域外からの参加案内送付		
	下旬		「大花火大会」の開催許可		
	28日	(月)		定例ゼミ授業（とちお祭の裏方参画の進め方検討等）	
	28日	(月)		栃尾本町区のとちお祭「仁和賀行進」の事前準備＆取材	栃尾
8月	4日	(月)	道路の使用許可申請、行列行進・集団示威運動許可書の申請、花火師への花火発注		
	6日	(水)	とちお祭の事前準備（会場と街中の設営等）	とちお祭の事前準備（会場と街中の設営等（のぼりたて、提灯付け等））＆取材	栃尾
	6日	(水)	「全日本樽みこし綱引き選手権大会」説明会	とちお祭「全日本樽みこし綱引き選手権大会」説明会に出席＆取材	栃尾
	8日	(金)	行列行進・集団示威運動許可書申請の許可		
	12日	(火)	「みこし渡御」説明会		
	18日	(月)	「安全祈願祭」、花火用単管運び、芳香稚草園の太鼓積込み、警備会社打合せ、祭最終打合せ	とちお祭「安全祈願祭」に出席＆取材	栃尾
	19日	(火)	とちお祭の事前告知・PR、とちお祭パネル展（アオーレ長岡で開催）	とちお祭の事前告知・PR（アオーレ長岡にてチラシ配布・パネル設置等）＆取材	栃尾
	20日	(水)	「大花火大会」寄附者への花火番付と御礼状の送付、花火のアナウンス原稿確認、FMながおか・アナウンサーとの打合せ、警備会社との打合せ		
	20日	(水)		栃尾本町区のとちお祭「仁和賀行進」の練習会出席＆取材	栃尾
	21日	(木)	とちお祭チラシの新聞折込、保健所施設検査（祭会場の秋葉公園）、やぐら組立・トイレ設置		
	22日	(金)	花火番付の新聞折込、民踊流し会場電灯設置・照明点検、スタッフ控室設置、みこし渡御会場設営、花火打上げ会場設営		
	22日	(金)	とちお祭の前日準備（会場と花火打上げ場の設営等）	とちお祭の前日準備（会場と花火打上げ場の設営等）＆取材	栃尾
	23日	(土)	とちお祭当日	とちお祭当日（裏方運営＆取材）	栃尾
	24日	(日)	とちお祭当日	とちお祭当日（裏方運営＆樽みこし綱引き参加＆仁和賀行進参加＆取材）	栃尾
	25日	(月)	とちお祭の後片付け（会場と花火打上げ場の片付け）、ごみの撤収、花火用単管片付け	とちお祭の後片付け（会場と花火打上げ場の片付け）＆取材	栃尾

9月	3日	(水)		ゼミ打合せ会(報告書作成＆パワーポイント資料作成)	
	8日	(月)	とちお祭アンケート調査の締切		
	10日	(水)		ゼミ打合せ会(報告書作成＆パワーポイント資料作成)	
	11日	(木)	「仁和賀行進」反省会		
	17日	(水)		ゼミ打合せ会(報告書作成＆パワーポイント資料作成)	
	24日	(水)		ゼミ打合せ会(報告書作成＆パワーポイント資料作成)	
	30日	(火)	「とちお祭反省会」		
10月	1日	(水)		ゼミ打合せ会(報告書作成＆パワーポイント資料作成＆パネル作成)	
	2日	(水)		ゼミ打合せ会(報告書作成＆パワーポイント資料作成＆パネル作成)	
	6日	(月)		長岡市市民協働推進室で中間レビュー(中間報告書＆パワーポイント資料提出)、長岡市政策企画課と地域戦略部に報告	市本庁
	8日	(水)		ゼミ打合せ会(報告書作成＆パワーポイント資料作成＆パネル作成)	
	10日	(金)		内閣府等主催「地方共助社会づくり懇談会in上越」にて今瀬ゼミの活動報告「裏方さんが地域を支える」(今瀬講演)	
	13日	(月)		定例ゼミ授業(報告書・パネル等作成打合せ、第2回中間レビュー練習)	
	14日	(火)		ゼミ打合せ会(報告書作成＆パワーポイント資料作成＆パネル作成)	
	15日	(水)		ゼミ打合せ会(報告書作成＆パワーポイント資料作成＆パネル作成)	
	16日	(木)		ゼミ打合せ会(報告書作成＆パワーポイント資料作成＆パネル作成)	
	20日	(月)		長岡市栃尾支所で中間レビュー(中間報告書＆パワーポイント資料提出)、栃尾観光協会に報告	栃尾
	21日	(火)		ゼミ打合せ会(パネル作成)、栃尾本町区「仁和賀行進」の打合せ	栃尾
	22日	(水)		ゼミ打合せ会(パネル作成)	
	23日	(木)		ゼミ打合せ会(パネル作成)、NPO法人フォーラム栃尾熱都にとちお祭パネル借用	栃尾
	24日	(金)		ゼミ打合せ会(パネル作成)、今瀬ゼミ作成の展示パネル等の設置	
	25日	(土)		悠久祭にてパネル展示「とちお祭の裏側珍百景」	
	25日	(土)		悠久祭にて「栃尾本町仁和賀隊パフォーマンス」	
	26日	(日)		悠久祭にてパネル展示「とちお祭の裏側珍百景」	
	27日	(月)		悠久祭でのパネル等の後片付け	
11月	10日	(月)		定例ゼミ授業(報告書作成＆パワーポイント資料作成)	
	11日	(火)		ゼミ打合せ会(報告書作成＆パワーポイント資料作成)	
	17日	(月)		定例ゼミ授業(報告書作成＆パワーポイント資料作成)	
	22日	(土)		今瀬ゼミのホームページ開設(成果物等の掲載、栃尾と「とちお祭」の情報発信)・以後随時更新	
	24日	(月)		定例ゼミ授業(報告書作成＆パワーポイント資料作成)、成果発表会の練習	
	25日	(火)	「大花火大会反省会」	とちお祭「大花火大会反省会」へ参加	栃尾
	26日	(水)		パネルの栃尾での展示用に栃尾観光協会へ運搬	栃尾
12月	1日	(月)		定例ゼミ授業(報告書作成＆パワーポイント資料作成)、成果発表会の練習	
	3日	(水)		成果発表会の練習	
	5日	(金)	栃尾タイムスに今瀬ゼミ「とちお祭」の記事掲載	成果発表会の発表原稿再編集、栃尾タイムスに今瀬ゼミ「とちお祭」の記事掲載	
	6日	(土)		長岡大学「学生による地域活性化プログラム」の成果発表会(ホテルニューオータニ長岡)	市内
	8日	(月)		定例ゼミ授業(報告書作成)、ゼミ生集合写真撮影	
	15日	(月)	栃尾タイムスに今瀬ゼミ「とちお祭」の記事掲載	栃尾タイムスに今瀬ゼミ「とちお祭」の記事掲載	
	16日	(火)		栃尾観光協会にて祭りの準備活動について取材	栃尾
	17日	(水)		報告書作成打ち合わせ	
	22日	(月)		定例ゼミ授業(報告書作成)	
	25日～1月28日		長岡市栃尾産業交流センターおりなすでの今瀬ゼミ「とちお祭」パネル展示会(12/24設置、1/29撤収)	長岡市栃尾産業交流センターおりなすでの今瀬ゼミ「とちお祭」パネル展示会	
1月	5日	(月)		定例ゼミ授業(報告書作成)	
	6日	(火)		報告書作成打ち合わせ	
	7日	(水)		報告書作成打ち合わせ	
	12日	(月)		定例ゼミ授業(報告書作成)	
	14日	(水)		栃尾おりなすでの今瀬ゼミ「とちお祭」展示会の記録、各所への挨拶まわり	栃尾
	19日	(月)		定例ゼミ授業(報告書作成)、打合せ会	
	26日	(月)		定例ゼミ授業(報告書作成)、今瀬ゼミ「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」(2014年度)の最終報告書完成	
2月	2日～13日		アオーレ長岡(長岡市役所本庁舎)での今瀬ゼミ「とちお祭」パネル展示会(2/2設置、2/13撤収)	アオーレ長岡での今瀬ゼミ「とちお祭」パネル展示会(2/2設置、2/13撤収)	市本庁
3月				長岡大学「学生による地域活性化プログラム」の報告書発行	

道の駅にある栃尾観光協会のスタッフと今瀬ゼミで集合写真を撮影

2. 長岡・栃尾地域の誇り「とちお祭」の概要

2.1 「とちお祭」の歴史と経済的背景

今瀬ゼミでは、「とちお祭への裏方参画」の活動を行う中で、とちお祭の歴史についても調査を行った。調査に際しては、長岡市栃尾支所からの提供資料、栃尾地域図書館や長岡大学図書館等に蔵書されていた資料、「栃尾タイムス」や「刈谷田新報（旧栃尾新聞）」等の古くからある文献資料を中心に調査を行って、とちお祭に変化が訪れた頃の資料を主に分析し、以下のように整理した。

2.1.1 「とちお祭」の 60 年の歩み

長岡市の栃尾地域における「とちお祭」は、今年度（2014 年度）で 60 周年を迎える。毎年、年に一度行われ、祭り事の多い栃尾の中でも地域を代表する祭りの一つである。

とちお祭の歴史は古く、1955 年まで遡る。当時は、名前を「繊維まつり」として存在しており、栃尾の繊維業界が中心となって行われ、織物求評展示会なども行われていた。栃尾観光協会が 1980 年に発足して、その翌年に繊維まつりは当時の「うま市」と統合され、名称を「とちお祭」に変えた。

「繊維まつり」から「とちお祭」へと変わる際には、多くのイベントが引き継がれて、その後も続けられている。今年度も実施された「仁和賀（にわか）行進」や「樽みこし綱引き」も古い歴史を持つ。かつての文献を見ると、仁和賀行進は 1956 年の第 2 回とちお祭から行われ（当時は「仁和賀行列」）、樽みこし綱引きは、1965 年の第 11 回から名前が確認できる。樽みこし綱引きは、2001 年の第 47 回において、「全日本樽みこし綱引き選手権大会」に名称を変更している。

2.1.2 旧繊維まつりと産業振興

「繊維まつり」は、前述したように「とちお祭」の礎となった祭りであり、当時から栃尾地域（旧栃尾市）の代表的な祭りとして存在していた。「刈谷田新報」（当時は栃尾新聞、1956 年 7 月 15 日）に「1956 年 第２回繊維まつり」の様子が記されており、我々今瀬ゼミが調べた資料の中では最古となる。以下、その記事の内容を抜粋し編集したものである。

> 栃尾商工会主催の「第二回繊維まつり」は十日夜、スターマイン二十発を含む、二百数十発の花火を打ち上げ、夏の夜空を彩った。一方、繊維従組が仮装行列を繰り出し、空と地上に前夜祭を賑わした。
> 栃尾織物工業協同組合で 11 日、北村県知事の臨席を得て、東京、京阪、北海道及び県内等の一流メーカー商社二百名余を招き、同組合階上にて秋冬物求評会を催した。二百数十点余の出品を陳列して、各商社の審査投票を行い、午後三時から化繊維物に対する忌憚のない批評がそれぞれ発表された後、投票の入賞品と製造工場の氏名を発表、それにより商社と機業者間の座談会を行って、秋冬物の生産について意見交換を行い、求評会の幕を閉じた。
> 十二日は秋冬物展示会、柔剣道大会、コラージュウ展が開催され、十三日は優良従業員三百五十名の表彰式、県相撲番付大会、国体予選会、市民囲碁、将棋大会があった。商店街では、ロマンスカーで夏の寺泊海水浴へご招待する「養蚕まつり連合大売出し」を行い、繊維まつりを賑わした。

「栃尾タイムス」には、1963 年の第 9 回から当時の様子が記事に残されている。栃尾タイムス第 12 号（1963 年 10 月 5 日）には、栃尾市長の「繊維まつりに寄せて」と題する寄

稿が掲載されている。以下はその抜粋である。

■「繊維まつりに寄せて」
全国に主要産地として誇る、栃尾市の繊維工業の振興と発展を祝福し、併せて春、夏織物の求評会を兼ねて行われます。
『繊維まつり』も第九回を数え、しかも年と共に盛大に催され商工業の進展に大きく寄与しておりますことは、市政の発展のためにもまことに喜ばしいことであります。
最近海外状勢と貿易の自由化により、東南アジアをはじめ海外輸出を増進するため、各地の見本市に出品しておりますことは今後の業界発展に大きな影響を及ぼすものと存じます。
（中略）
市勢の発展とともに、栃尾織物の声価を高め、年々『繊維まつり』が盛大になることを念願してお祝いのことばといたします。

この内容からも窺えるように、当時の繊維まつりは、栃尾地域の商工業の中心であった繊維産業と深い関わりがあり、市長も祭りに対しては産業の振興・発展の象徴として期待を持っていた。

また、栃尾タイムスの同号には、「栃尾織物工業協同組合」の当時理事長であった石田務氏による、「第 16 回栃尾織物求評会の開催にあたって」と題する寄稿も掲載されている。以下、その抜粋である。

■「第 16 回栃尾織物求評会の開催にあたって」
恒例の栃尾織物求評会を本年も来る十、十一の両日当組合大ホールにおいて華々しく開催いたします。本催も今回をもつて十六回目を迎えることになりました。
年一回のこの織物求評会は、終戦後私供栃尾産地の志向するところの織物を端的に且つ赤裸々に表示してまいつたもので、随つて既往におけるこの催の一回一回が産地にとつて非常に有意義に作用していると同時に、過去十五回のこの催の指標の集積が今日の栃尾織物を形成している次第であります。この点、本求評会は、戦後における栃尾産地の「織物史」であります。しかも、この催は回を重ねる毎に、あまねく業界にその真価の御認識を深めつつあることは、主催者として誠に欣快に堪えぬところであります。
（後略）

「繊維まつり」に転機が訪れたのが、第 11 回目の 1965 年である。この年、現在の「とちお祭」でも主要イベントとして行われる「樽みこし綱引き大会」が初めて開催された。また、前年まで繊維まつりと併せて行われていた「織物求評会」と切り離して行われた。

そのことは、栃尾タイムス第 82 号（1965 年 9 月 8 日）の「上谷内が初優勝　樽みこし綱引き大会　花火で繊維祭り賑わう」と題する記事からも確認できる。以下、その抜粋である。

■「上谷内が初優勝　樽みこし綱引き大会　花火で繊維祭り賑わう」
栃尾市恒例の繊維まつりは今年から織物求評会と切り離して二十七日行われ新名物にしようとはじめられた樽みこし喧嘩まつりは旭町、滝之下、上谷内、下谷内、岩神、三光、新町が参加して、秋葉門前と諏訪神社にわかれて午後一時集まり、子供みこしや大団扇を従がいて市中を練り、他チームと出会つて綱引きの余興をするなど景気づけをし、午後四時から秋葉公園で呼びものの樽みこし綱引き決勝大会を行ない、町は終日にぎわった。
繊維まつりはこれまで織物求評会と同時に実施してきたが、商談のための求評会をより真剣なものにするため、まつりと切り離して実施することになつたもので、樽みこしは盛大なものにするため商工会が張り切り、秋葉山公園での綱引き決勝大会は各町内の代表十人で樽みこしに綱をつけて引合い、約六千人の見物からかつさいを浴びた。この日はほかに諏訪神社境内で秋祭り奉納相撲が行なわれ夜は盆踊り、スイング・ローズリーの楽団演奏、土々町の市内民踊流しと恒例の花火大会が長峰スキー場で開らかれ、市民を楽しませた。

樽みこし綱引き決勝大会成績（○印が勝）
○上谷内－三光　／下谷内－旭町○／○新町－岩神／○上谷内－滝之下／旭町－新町○　／○上谷内－新町　　①上谷内　②新町　③旭町、滝之下

この記事の内容から分かるように、「樽みこし綱引き大会」は前年度まで「繊維まつり」と併せて行なわれていた「織物求評会」が切り離された事で、より祭りを盛り上げる為に商工会が企画したイベントであった。2014 年の現在も樽みこし綱引きは、商工会青年部が中心となって企画・実施をする「全日本樽みこし綱引き選手権大会」として、とちお祭に残っているイベントである。

また、前述の栃尾タイムス第 12 号の記事からも分かるように、「繊維まつり」の初期の頃には、住民が参加し祭りを楽しむという意図とは別に、「栃尾市の産業、商工業を市内外に周知する」といった広報面での役割を担っていたのである。当時は、北海道、関東、関西など全国各地から 200 数十社の商社を招いていたということから、栃尾で繊維工業が如何に盛んであったかということが分かる。そして、その後は、繊維工業の衰退に伴い、現在の「とちお祭」の形に徐々にシフトしていったのである。

2.2 「第 60 回とちお祭」（2014 年）の概要

2.2.1 祭りの概要

「とちお祭」は、2014 年の今年度で 60 周年を迎えて、栃尾の人々にとって大きな一つの節目となった。開催日は、8 月 23 日(土)と 24 日(日)の 2 日間で、栃尾観光協会（主催）や長岡市（共催）の栃尾支所が中心となり、栃尾の各町内や諸団体などの協力・参画のもと行われた。

■「第 60 回　とちお祭」の開催概要

とちお祭の幕開けを告げる「オープニングイベント」では栃尾のうまいものが大集合の味のテント村や各種演奏を披露。また、伝統の栃尾甚句が通りを埋めつくす「大民踊流し」や、半纏合わせ必見の「みこし渡御」、町内会ごとに時代を反映し趣向を凝らした山車と踊りで市街地をめぐる「仁和賀（にわか）行進」、全国でも珍しい、力自慢の男女が樽みこしを引き合う「全日本樽みこし綱引き選手権大会」など、見ごたえのあるお祭りです。
夜空を彩る約 5,000 発の花火が、とちおの夏と祭りのフィナーレを飾ります。

◇「とちお祭」のイベント内容
①オープニングイベント（ミュージックアトラクション）
②全日本樽みこし綱引き選手権大会
③仁和賀行進　④大民踊流し　⑤みこし渡御
⑥大花火大会　⑦味のテント村等

◇栃尾観光協会
新潟県長岡市栃尾宮沢 1764　道の駅 R290 とちお内
TEL：0258-51-1195　E-mal：info@tochiokankou.jp
ホームページ　http://tochiokankou.jp/

（資料）栃尾観光協会ホームページ
<http://tochiokankou.jp/matsuri/tochio.html>より引用

とちお祭のポスター

■「第 60 回とちお祭」の開催内容

1日目（2014年8月23日（土））			
内容	時間	会場	参加団体等
オープニングイベント			
ミュージックアトラクション	10:00~12:10	秋葉公園	みどり学童クラブとちおTAIKOキッズ
			芳香幼稚園・栃尾天使幼稚園
			双葉保育園・長岡向陵高校ダンス部
			栃尾東小学校・栃尾南小学校
			長岡大手高校ダンス部
味のテント村	10:00~15:00		栃尾市場組合
			NPO法人フォーラム栃尾熱部
ゲームコーナー	10:00~15:00		
全日本少年少女樽みこし	13:00~15:00		大野町城山キッズ・大野町天神キッズ
綱引き選手権大会			栄町ファイターズ・原町オールスターズ
			原町スターバックス
大民踊流し	19:00~20:30	谷内1丁目	別記
		～滝の下町	
みこし渡御	20:30~21:40	大布橋東詰交差点～	東町御神楽・金町御燈篭神輿
		秋葉ﾄﾝﾈﾙ東口交差点	栃尾原町四神神輿・新町万灯神輿
			ほだれ神輿・越後栃尾秋葉神輿
			美飾睦

2日目（2014年8月24日（日））			
内容	時間	会場	参加団体等
全日本樽みこし綱引き	9:00~12:30	秋葉公園	
選手権大会			
男子の部			大野町城山・栃尾保樽会・大野町天神
			天下島・原町　黄龍・原町　翔龍
			平成福祉会・IVUSAボーイズA/B
女子の部			善昌寺保育園・あささ　おここ
			IVUSAガールズA/B
チャレンジシップ			ALWAYS/IVUSA　A～Fチーム
			今瀬政司ゼミナール
仁和賀行進	12:00~15:05	出雲通り	リックスポーツ・栃尾旭町区
		～終了後各町内へ	谷内2丁目・谷内1丁目・栃尾本町区
			同住会・栃尾新町区・栃尾観光協会
大花火大会	19:30~21:00	栃尾東小学校～	
		栃尾高校前防波堤	
		栃尾東小学校ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ	
		栄橋～巻渕橋間左側	
		（見物会場）	

■「大民踊流し」の参加団体

ALWAYS　天下島	谷内1丁目	栃堀一座
えくぼの会	第四銀行栃尾支所	（株）北越銀行栃尾支所
滝の下町区	シルバー人材センターまごころ会栃尾支部	谷内2丁目
上の原町区	栃尾大町区	金沢区
栃尾郷診療所・介護老人保健施設とちお	社会福祉協議会栃尾支所	てまり総合ケアセンター
修士会	刈谷田中学校	芳香幼稚園　有志
善昌寺保育園	栃尾原町区	越後ながおか農業協同組合栃尾総合支店
栃尾同住会＆国際ボランティア学生協会	栃尾本町区	栃尾青年会議所
みどり保育園・みどりデイサービスセンター	栃尾表町区	秋葉中学校
長岡信用金庫栃尾支所	東ヶ丘整形外科	（以下、個人参加）
仲子町区	いずみ苑	
西谷小学校	東が丘区	
長岡市栃尾支所	栃尾大野町区	
オール繊維	諏佐縫製	

2.2.2 各イベントの実施概況

(1)オープニングイベント

とちお祭の始まりを合図するオープニングイベント。今年のオープニングイベントは、メイン会場の秋葉公園（栃尾美術館近く）のステージで 10 時から行なわれ、ミュージック・アトラクションとして地元の幼稚園の園児や高校生による演奏、演技が行なわれた。

また、味のテント村やゲームコーナーなども開催され、会場を賑わせた。

飲食ができる机、椅子も設置されており、屋台の飲食店ブースで買った食べ物をその場で食べることが出来る。

(2)全日本樽みこし綱引き選手権大会

「全日本樽みこし綱引き選手権大会」は、全国でも珍しい、酒樽を積んだみこしを使った綱引き大会で、とちお祭の中でも非常に迫力のあるイベントである。酒樽を載せたみこし２基をロープでつなぎ、双方８人で引き合うという競技で、脚力や腕力だけでなく、8 人のバランスとチームワークが求められる競技である。以下の３部門が用意されており、どの部門でも迫力のある試合を見ることが出来る。

(2-1)全日本少年少女樽みこし綱引き選手権大会

「全日本少年少女樽みこし綱引き選手権大会」は、祭りの１日目に秋葉公園にて行なわれた。今年は全５団体が出場し、子供らしい元気のある大会であった。また、会場は子供の家族などが多く来場していたためか、非常に多くの人が集まっていた。

(2-2)チャレンジシップ

全日本樽みこし綱引き選手権大会の「チャレンジシップ」は、とちお祭２日目のイベントであり、その名の通り経験の少ない団体でも参加可能な部門である。全く経験がない団体であっても、経験者の方たちが樽みこしの持ち方や、勝つためのアドバイスをして下さる。樽みこし綱引きの面白さは、実際に参加してみて初めて分かるため、一度は是非参加してみるべきである。

(2-3)チャンピオンシップ

全日本樽みこし綱引き選手権大会の「チャンピオンシップ」は、同じく２日目に開催される熟練者達の戦いであり、チャレンジシップとはまた趣向の異なった内容となっている。３つの部門の中で最も迫力がある部門である。今年は、男女 13 団体が出場し、熱い戦いを見せた。

(3)大民踊流し

「大民踊流し」は、1 日目の夜に行なわれる行事であり、今年度はとちお祭の中でも最多の 37 団体が出場する大きなイベントとなっていた。栃尾支所を始め、各地区や企業などが中心に出場していた。

衣装等にこだわりを持っている団体も数多くあり、参加せずに見て回るだけでも各団体の個性を感じることが出来て、とても面白いイベントである。

(4)みこし渡御

大民踊流しの終了後、その大民踊流しを行った同じ通りで「みこし渡御」が行われた。全7団体が出場し、栃尾地域で有名な「ほだれ神輿」などを筆頭に様々な神輿が現れた。祭りの1日目を締めくくるのに相応しい、非常に見応えがあるイベントとなっている。

(5)仁和賀(にわか)行進

「仁和賀行進」は、各地区・団体が時代や地域柄を反映した独自の出し物を行いながら街なかを練り歩くものである。2日目の「全日本樽みこし綱引き選手権大会」の終了後に行なわれた。今年度は全7団体が出演し、内容としては、今瀬ゼミも参加した栃尾本町区のパフォーマンス（ダンス・仮装等）の他、各地区・団体が趣向を凝らした太鼓やよさこいなどの発表が行なわれた。

(6)大花火大会

栃尾の「大花火大会」は、とちお祭2日目の夜に行われ、祭り全体を締めくくるイベントである。打上場所は、全国でも珍しく、栃尾の町中の山の頂上にある。打上げ設営、点火合図、燃え殻回収などは（花火師のみが行う筒設置や玉点火等以外)、住民（栃尾煙火協会）が手作りで実施している。

花火の内容も、栃尾地域の四季を表現したスターマインなどもあり、規模は他の地域に比べて小さいが、花火の内容が一つのテーマとしてまとまりがあるように感じた。協賛や打上げ準備・片付けなど、住民の手によって打上げられる花火は、他の地域に負けないほどに魅力的に感じた。

2.2.3 祭りの担い手

(1)祭りの「裏方」として企画・運営を担う組織やスタッフ

「とちお祭」の裏方として企画・運営を主に担って作業しているのは、栃尾観光協会の事業部や長岡市栃尾支所の商工観光課、ならびに栃尾商工会などのスタッフである。それに、「大花火大会」を中心的に担っているのが栃尾煙火協会、「全日本樽みこし綱引き選手権大会」を主に担っているのが栃尾商工会商業青年部の方々である。

(2)祭りの「表方」として参加する団体や参加者たち

栃尾の地元の団体・住民の参加が中心となっており、それに域外の団体も参加して、祭り全体を盛り上げている（参加団体は前掲の表の通り)。

数あるイベントの中でも特筆すべき事は、「大民踊流し」の参加者・参加団体の多さである。全37団体が出場しており、我々今瀬ゼミは当日に大民踊流しの様子も取材・記録させて頂いたが、各団体共に参加者が非常に多く、時間内に全ての団体を写真に収める事ができないのではないのか、という意見も出たほどであった。

一方、「全日本樽みこし綱引き選手権大会」や「仁和賀行進」については、参加団体の減少が起きており、各部会では大きく見直すなど対策の必要があるのでは、という声も出ていた。

3.今瀬政司ゼミナールの「とちお祭」への道
～「第 60 回 とちお祭」における裏方参画と調査・情報発信～

3.1 今瀬ゼミの企画立案における試行錯誤

今瀬政司ゼミナールでは、2014 年 4 月のゼミ授業の開始から 6 月にかけて、ゼミ生自身がゼミで取り組む事業の企画立案を行った。何を行うのか明確になるまで、長岡市役所の本庁（市民協働推進室、地域振興戦略部、政策企画課）や栃尾支所（商工観光課、地域振興課)、ＮＰＯ法人市民協働ネットワーク長岡、公益財団法人山の暮らし再生機構 栃尾サテライトに訪問して、事前取材や企画立案への相談に乗って頂いた。そして、何度か様々な方々にアドバイスを頂くことで、企画書が何度もバージョンアップしていった。

3.1.1 企画書(第１案):「長岡駅から過疎地域を繋ぐ」

我々今瀬ゼミは、地域活性化のこのゼミで何がしたいのかと話し合い、5 月 19 日、ゼミ生同士で話し合って、企画書の第１案として、「長岡駅から過疎地域を繋ぐ」という以下の企画書(第１案)を作成した。

2014 年 5 月 19 日

「長岡駅から過疎地域を繋ぐ」企画書（第１案）

１．目的

長岡の中心市街地から既存の交通網を利用し過疎地域を活性化させる。

２．内容

長岡駅から出ているバスを利用し、過疎地域に人を呼び込む。そして、その場で観光客などに地域にお金を落としてもらえるようなイベントや場所を地域の人と協力し用意する事をゼミで一貫して行う。

(１)長岡駅

駅やその周辺などで過疎地域の告知・広報活動を行う。また、バスを利用して過疎地域への観光を行ってもらえるような取組みを行う。

(２)地域での活動

イベントや店などを地域の方と協力して用意し観光面での魅力を高める。

(３)アンケート

市内の人や観光に来た人などにアンケートを行って改善点などを見つける。

3.1.2 企画書(中間案):「栃尾」に焦点を当てる！

そして、さらに検討を進め、地域活性化に取り組む上では具体性が必要であるため、「栃尾」地域に焦点を当てることにして、企画のテーマを「長岡駅から栃尾地域を繋ぐ」とした。長岡駅周辺など各地から栃尾地域（長岡市に合併する前の旧栃尾市）に多くの人を誘導し、人の流れや繋がりができることで栃尾地域を元気にしていきたいと考えたのである。以下が、5 月 22 日に第１案から更新した企画書(第 2 案)である。

なお、「栃尾」に地域活性化の焦点を当てた理由について、当初は、地域の現状をきちんと把握した上でという訳ではなく、「自分たちが通う長岡大学から栃尾地域が近い」というような安易な考えで栃尾に決めた（報告書取りまとめの時点で振り返ると非常に恥ずかしいことである)。しかし、ゼミでの活動を通して、とちお祭や栃尾の地域について知ることで、また、栃尾の方々とお付き合いすることで、途中から栃尾を選んで良かったと思うようになっていった。

2014 年 5 月 22 日

「長岡駅から栃尾地域を繋ぐ」企画書（第 2 案）

１．目的

長岡中心市街地から栃尾地域をつなげ人の流れを作る。

２．内容

（1）長岡市、栃尾地域の自治体に残っている、観光・交通等の資料を集計し足りない部分を補うアンケートを作成する。
（2）アンケートと集計した資料を参考に、イベントでのターゲット層を絞り込む。
（3）長岡・栃尾の自治体と協力し、長岡の市街地（アオーレ等）で栃尾地域を取り上げたイベントを行う。また、そのイベントで栃尾地域の広報・宣伝を行う等の活動で、長岡から栃尾への人の流れを作る。
（4）悠久祭にてイベント、資料の集計結果等をまとめたパネル展示を行う。
（5）最終報告のためのアンケート作成を行い集計し、成果発表会と報告書の準備をする。

6 月 3 日、企画書の第 2 案を持って、事前取材と企画書の相談、協力依頼のために、長岡市の地域振興戦略部を訪問した。地域振興戦略部の市職員の方からは、「(今瀬ゼミ生の)企画書は非常に大雑把な企画であり、具体性に欠けている」「現実性がない」といった指摘を受けた。同じような指摘は、それ以前に今瀬先生からも指摘を受けていたが、我々ゼミ生自身、実際に市職員の方から指摘を受けると恥ずかしい気持ちになった。「長岡駅から栃尾地域を繋ぐ」とテーマを決めたことで、ゼミ生自身は明確な目的になっていると考えたが、「栃尾地域は広く、栃尾全体として考えるのは難しい」といった意見を頂いた時は、本当に勉強不足であったと感じた。市職員の方々が言葉を一生懸命にオブラートに包むのが伝わってきて悔しい気持ちも出てきた。

そして、市職員の方からは、「栃尾には既に祭りなどの計画があるから、その中でブースを出したりして協力するといいのではないか」「市の栃尾支所（地域振興課）やＮＰＯ法人フォーラム栃尾熱都に相談したり、道の駅に行ってみたりするといいかもしれない」、といった様々なアドバイスを頂いた。

そうしたアドバイスをもとに、翌週の 6 月 9 日、長岡市の栃尾支所地域振興課へ行き、同じ企画書（第 2 案）を見て頂きながら、栃尾地域について様々なことを教えて頂いた。

栃尾では近年、人口が減り続け、少子高齢化が進んでいること。医療施設などは不十分で以前にあった総合病院も診療所となったこと。基本的な交通手段は乗用車でバスを利用する人は少ないこと。バスの本数自体少ないが、仮に本数が増えたとしても、長岡駅前から栃尾地域に行くには見附経由で約 1 時間もかかってしまうこと、といった様々な問題を地域が抱えていることを伺った。

栃尾の「道の駅 R290 とちお」は有名で年間約 50 万人もの人が訪れているが、道の駅の来訪者が栃尾の中心街まで足を運ぶことは少ないため、商店街の活性化などのためにも、その誘導を図ることが課題となっていることも伺った。

一方、栃尾には様々な祭りやイベントがあり、その多さ、多様さ、独自性が栃尾の地域特性であることを教えて頂いた。栃尾で最も大きい祭りが「とちお祭」(8 月) であること。栃尾を象徴するような特産品を軸にした祭りも多く、「とちお自慢市」(6 月) では、「巨大あぶらげ製作」や「とちおをイメージしたお菓子コンテスト」などが行われることなど。

そうしたアドバイスを通じて、我々今瀬ゼミ生が栃尾で何ができるのか、栃尾の活性化のために何をお手伝いさせてもらえるのか、徐々に見えてきた。

3.1.3 企画書(最終案):「とちお祭」のみに焦点を当てる！～とちお祭への参画決定～

そして、栃尾から戻り、すぐに我々今瀬ゼミ生は話し合った。そして、「とちお祭」のみに焦点を当てて、栃尾活性化の取組みを行いたいと考えた。企画を再度練り直して、再更新した企画書(第3案)が以下の「とちおまつりへの参加とパネル展示」であり、その翌週6月16日に再度、市栃尾支所に伺うアポイントを取った。

2014年6月16日

「とちおまつりへの参加とパネル展示」企画書（第３案）

１．目的

栃尾地域の歴史や名産品などの観光・文化面をアピールし栃尾に向かう観光客を増やす事を目的とする。

２．内容

（１）本学の学園祭である悠久祭にて、祭りや歴史などをまとめたパネルを作成し展示する事によって地域の魅力を来場者に知ってもらい栃尾と長岡間での交流人口を増やす。

（２）とちおまつりに参画する。運営や準備段階から手伝える部分を探しながら、ゼミ生と地域の方の交流ができる場を増やす。

（３）パネル展示のための等事前調査を行う、地域に対する理解を深めまた、栃尾の方との交流を行う。展示する栃尾の歴史などについてのパネルは、自分達の足で栃尾の道祖神や、謙信ゆかりの地などを回ってみて調べ、栃尾に住んでいない人が知らないような部分を中心的にPRする。

３．スケジュール等について

①とちおまつりが開催される8月までに、まつりにどういった形で参画するのかを決定し、準備を進める。

②10月に開催される悠久祭に向け展示用パネルの準備をするため、栃尾の文化歴史を勉強する。

③10月から12月にかけて、栃尾地域の良い所を悠久祭と各地で情報発信する。

④11月から2月にかけて、成果発表と報告書作成をする。

6月16日、企画書(第3案)を持って栃尾を再度訪問し、長岡市栃尾支所商工観光課と公益財団法人山の暮らし再生機構 栃尾サテライトにアドバイスを頂いた。ゼミ企画として、栃尾の「とちお祭」という具体的な取組みに焦点を当てたことで、これまでより現実性を持って相談のお願いができるようになった。「とちお祭」や栃尾地域のことを非常に具体的に教えて頂き、今瀬ゼミが現実性を持った取組みができるようにアドバイスを頂けることができた。

相談のやり取りの中から、「とちお祭の裏方」として参画させて頂くことはどうか、という話になった。祭りでは裏方として学べる部分が多くあるであろうし、普段目にすることがない裏方という視点・立場で活動をし、その活動を通じた成果を取りまとめて発表、情報発信してくことで、栃尾地域のＰＲにも繋がるであろうと考えた。また、栃尾の人たちも「祭りの裏方としてぜひ協力をして欲しい」と言って下さった。我々今瀬ゼミは「とちお祭の裏方」の活動に取り組むことに決定し、意気投合した。

そして、栃尾でのアドバイスをもとに、企画書をさらに見直して、6月17日に再更新した企画書(第4案)の「とちお祭への参画と調査・情報発信」を作成した。それを持って、翌週の6月23日には、長岡市の市民協働推進室を訪問して、企画内容へのご協力とアドバイスをお願いした。

今瀬ゼミでは2014年度、「自治と協働による地域づくり」という大テーマを掲げている。市民協働推進室に協力を求めたのは、栃尾地域の活性化には市民と学生と行政等の「協働」による取組みが必要であることや、長岡駅周辺などから栃尾への誘客の動きを広げるには

市役所の全庁・全市的な機能とも相互連携（協働）を図る必要があると考えたからである。

市民協働推進室では、企画書(第４案)について、これまでとはさらに違った視点からアドバイスを頂くことができた。「裏方として参画活動する際には、調査メモ、写真、ビデオ、録音等により記録をきちんと残すことが重要であること」、「記録したものをもとに取りまとめた展示パネルや映像、報告書などを作成して情報発信すること」、「記録とそれによる情報発信では、若いゼミ生たちならではのオリジナル性あふれるものを期待したい」、「とちお祭の記録として普段、表に出ないようなドキュメンタリー的なものにすれば面白いのではないか」、「良いものができれば、アオーレ長岡（長岡市役所本庁舎）でのパネル展示等で協力する」など、「とちお祭」後の情報発信の段階についてもアドバイスを頂けた。そして、企画書をさらにより具体的なものへと見直すことができた。後にアドバイザーを引き受けて下さることになった安達氏とともに、市の担当職員の小村氏、目黒氏はとても優しく丁寧に対応して下さり、ゼミのスタートとしても前向きな方向を持つことができた。

我々今瀬ゼミ生は大学へ戻り、企画書(第４案)の修正としっかりとした方向性について話し合った。こうして、毎週のように内容が変わっていた企画書がようやく固まってきた。1 か月程前にはまだ目的や具体的な実施内容が定まらない曖昧な企画が、現実的な企画書(案)として出来上がりつつあった。そして、以下が最終の企画書である。

「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」企画書（最終案）

長岡大学 今瀬政司ゼミナール ゼミ生一同

五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、相山祐輝、太刀川健太朗（３年生、五十音順）

１．目的

栃尾地域の歴史や名産品などの観光・文化面をアピールし栃尾に向かう観光客を増やす事を目的とする。

２．内容

（1）長岡大学の学園祭である悠久祭などにおいて、「とちお祭」（8 月 23・24 日）をまとめた展示パネル等の情報発信ツールを作成し、多くの人に発表、告知を行う事によって、地域の魅力を来場者に知ってもらい、栃尾と長岡各地間での交流人口を増やす。

（2）「とちお祭」の裏方として参画する。運営や準備段階から手伝える部分を探しながら、とちお祭に参画していく中で、栃尾の方達と協働で作業を行っていき、ゼミ生と地域の方の交流ができる場を増やす。

（3）パネル展示等の情報発信のために事前調査を行う。内容を「とちお祭」一点に絞り、深い内容になるようにする。祭のなりたちや現在の状況等を中心にまとめ、狭く深い内容とすることにより、見ごたえのある制作を目指す。

３．スケジュール等について

（1）「とちお祭」の準備が本格化する７月には、祭りにどういった形で裏方参画するのかを調整、決定し、作業に入る。

（2）１０月に開催される悠久祭等に向け展示パネルの準備をするため、とちお祭について調査する。

（3）１０月から１２月にかけて、栃尾地域の良い所を悠久祭と各地で情報発信する。

（4）とちお祭の終了後、８月から 12 月にかけて、報告書作成と成果発表をする。

なお、今瀬ゼミの取組みは、長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」にも位置づけられていることから、企画書の作成と並行して、ゼミのアドバイザーとして協力して下さる方を探して、以下の御二人にお願いをして快諾を得ることができた。

荒木 隆 氏　長岡市栃尾支所商工観光課 観光係長

安達一啓氏　長岡市市民協働推進室市民協働班 主査

3.2 今瀬ゼミの「第 60 回とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」

3.2.1 結団式

7 月 4 日、栃尾文化センターにおいて、「とちお祭」の関係者が参加して「結団式」が行われた。結団式では、「第 60 回 とちお祭実施要項」が参加者に配布され、「仁和賀行進」や「全日本樽みこし綱引き選手権大会」などの祭りのイベントについて説明が行われた。祭りの予算は、約 400 万円とのことであった（大花火大会の予算を除く）。説明会の終了後には、交流会が催された。

結団式の参加者数は約 90 人で、30 代と見受けられる若い方もおり、我々ゼミ生自身、高齢の方ばかりで運営しているとの先入観があったが、そうではなかった。しかし、やはり若い方の人数は少なく、今後、高齢の方が抜けてしまった分を埋めることができるのだろうかという疑問は残った。

今瀬ゼミも参加者の一員として、結団式に参加させて頂いた。配布された実施要項には、祭り全体とともに、イベントごとに具体的な内容や進め方、参加申込書などが載っていた。そのため、とちお祭で行われる各イベントについて、より詳しく知ることができた。

交流会では、他の参加者同様に料理やお酒を頂きながら懇親を深めさせて頂いた。また、ステージで今瀬ゼミの紹介もさせて頂いた。

結団式の様子

3.2.2 仁和賀（にわか）部会

とちお祭の２日目に「仁和賀行進」が行われた。参加団体それぞれの地域の特色を生かした演技や衣装が魅力的なイベントである。このイベントを開催するにあたって、「仁和賀部会」というものが祭りの前に行われた。仁和賀部会は、参加団体の代表者と祭りで中心的な役割を果たす事業部で行われ、第１回は祭りの３ヶ月近く前の６月３日であった。

第２回（6 月 17 日）の仁和賀部会では、部会長を中心に仁和賀部会の説明や質疑応答が行われ、最終回となった第３回（7 月 25 日）では、行進の出発地点や出発時刻（12 時）、演技をする場所、演技の時刻（開始 13:30～終了 14:30）、前回部会時からの変更点などの最終確認を行った。

仁和賀行進は、栃尾地域の過疎化に伴い、参加団体数も年々減少してきており、最盛期には 15 団体であったのに対し、今年の参加団体数は事前登録が６団体しかなかった（最終的には８団体が参加）。

■仁和賀行進の演技順

１.[栃尾旭町]→２.[谷内２丁目]→３.[谷内１丁目]→４.[栃尾本町]
→５.[とちお同住会]→６.[栃尾新町]　（リックスポーツと栃尾観光協会が追加）

今年度の仁和賀行進の目的は、「全ての町内が集まって演技を行うこと」と話し合って決められた。昨年の反省点で、参加団体が他の団体の演技を見られないという問題点があげられており、それを改善するためにも各団体が集まれる待機場としてスペース（秋葉トンネル前）を設けることとなった。なお、昨年は、車両の進入が問題になったため、会場の

警備を確実に行う必要性も話し合われた。

仁和賀部会

今瀬ゼミは6月17日､栃尾文化センターで行われた第２回の部会に初めて参加させて頂き、取材・記録とともに、参加者の方々に挨拶をさせて頂いた。仁和賀行進はとちお祭のメインイベントの一つと聞いていたため、我々ゼミ生自身、部会には多くの参加者があるものと勝手に想像していたが、参加者数は十数名ほどであった。部会では、上述のように参加団体数が減少していることの報告があり、また、部会参加者の中からは「来年は仁和賀行進をやめて、それに代わるイベントを新たに検討すべきではないか」といった意見も出ており、栃尾地域の過疎化の深刻さを肌身で伺うことができた。また、部会では、あまり会議をするという雰囲気ではなく、決まった事項を報告・説明して確認し合うという意味合いが大きいもののように感じられた。

来年の「仁和賀行進」がどうなるのかはまだ分からないが､「繊維まつり」から「とちお祭」へと移り変わっていったように、仁和賀行進に関しても、栃尾地域の現状に合わせたイベント内容に変化させていくことが求められているのかもしれない。

7月25日の第３回の部会に参加した際には､仁和賀行進の参加団体で例年最も活気があると伺っていた「栃尾本町区」（以下、本町）の吉田美紀子氏にお話しを伺うことができ、後日、本町の準備会・練習会等への取材もさせて頂けることになった（後述)。

3.2.3 仁和賀行進に関する「本町」への取材

栃尾本町諏訪神社

仁和賀行進の参加団体である「本町」は、毎年とちお祭が近づくと連日のように、栃尾中心街の本町区内にある諏訪神社で仁和賀行進の準備を進めている｡神社の境内には、過去の仁和賀行進で使われていた仮装の衣装、着ぐるみ、小道具などが多数置いてある。それらすべては住民の方々が手作りで作ったものと伺い、驚きを受けた。さすが繊維のまちといったところだろうか。

2014年の今年度は､「とちお祭 60周年」という記念すべき節目の年であることから、それら過去の衣装なども使って新たな仁和賀パフォーマンスを企画、披露した。以下、本町の吉田氏らが企画した「本町」仁和賀行進の構成案である。

■2014年「本町」仁和賀行進のための構成案
テーマ「祝60周年とちお祭 本町RETURNS ～ありのままで‥」
とちお祭（当時、繊維まつり）が始まった60年前から現在までの出来事をふりかえり、それにあわせて今までの本町の仁和賀パフォーマンスを披露。リクエストが多かったもの､「ジュリアナ」「ウォーターボーイズ」「セーラームーン」「レディ・ガガ」など。それにあわせ今年の流行､「妖怪ウォッチ」「アナと雪の女王」をからませ、最後のシーンで「ありのままの本町」ということで、全員でノリノリで踊っている姿を見せる。（一部抜粋）

今瀬ゼミでは、7月28日と8月20日に本町に取材、参加訪問をさせて頂いた。7月28日は夜7時半に、本町の仁和賀行進のまとめ役である吉田氏と合流し、諏訪神社の中に入らせて頂いた。10名近くの本町住民の方々が次々と集まってきて、仁和賀行進の演技で使

う衣装や小道具などの作成を始めた。我々ゼミ生は挨拶をした後、一緒に衣装を着て状態確認をしたり、小道具のポンポン製作のお手伝いをしたりした。

その後、懇親会を設けて頂いて、お酒やおつまみをご馳走になった。そこで話が弾み、「本町の仁和賀行進に参加しないか」とお声をかけて頂いて、我々今瀬ゼミも演技に加わって一緒に踊らせて頂けることになった。

神社境内でポンポン作成

またさらに話は弾み、その時の思い付きから、我々ゼミ生たちが長岡大学で開催する学園祭「悠久祭」において、本町住民の方々にお越し頂いて、大学キャンパスで「仁和賀行進」のパフォーマンスを披露して頂けることになった。「とちお祭の“出前開催”」の企画である（後述）。

ゼミ生と先生の女装

8月20日には、仁和賀行進で使用するトラックの荷台を男性陣がメインになって装飾していた。また、諏訪神社の近くにあるスタジオでは、出演する多くの住民の方々が演技の練習をしていた。子供たちも複数人参加しており、とても賑やかであった。とちお祭直前ということもあって、一連の流れや細かい部分の確認という様子であった。本町の企画した踊りのテーマ「祝60周年とちお祭 本町RETURNS～ありのままで‥」では、数十人が踊るがパフォーマンスの各場面で振り付けや衣装などが異なっているため、準備は非常に大変である。本町の仁和賀行進に向けての力の入れようを伺うことができた。

スタジオでの練習の様子

こうした本町のように、地区で集まって一緒に何かやるというのは、同じ地区の人との付き合いが深くなることにつながるのだろうと思われた。ただ一方、本町が最も活発に活動していると伺っていたが、栃尾本町区以外の地域が、どれほど活気づいているのか気になった。

3.2.4 全日本樽みこし綱引き選手権大会の説明会

8月6日、「全日本樽みこし綱引き選手権大会」の説明会が栃尾体育館のミーティングルームで夜7時から行われた。参加団体の代表者の方々が参加しており、綱引き大会リーダーの松生氏の進行のもと、大会当日の流れの説明、質疑応答などが行われた。

全日本樽みこし綱引き選手権大会
説明会の様子

今瀬ゼミは、説明会の様子を写真やビデオで記録を撮りながら、取材させて頂いた。説明会の終盤では、松生氏から「長岡大学の今瀬ゼミさんも出場しないですか。1チームの出場選手は8名です」、と声をかけて頂いた。そして、今瀬ゼミのゼミ生、長岡大学ボランティア学生、今瀬先生がチームを作って出場することが急遽決まった。それは、栃尾の地元からの参加チームが少なかったことも背景にあった。

3.2.5 安全祈願祭

安全祈願祭の様子

8 月 18 日の午後 13 時半から「長岡市栃尾産業交流センターおりなす」で、とちお祭の「安全祈願祭」が行われた。とちお祭が無事に成功するように祈願するものである。とちお祭の各イベントの代表者や栃尾観光協会をはじめ、祭りの関係者の方々が集まっていた。お酒の入った樽などが供えられ、宮司さんにより厳格な雰囲気の中で執り行われた。祭の前に安全祈願祭が行われるのは、歴史が深い祭だからこそと思った。

我々今瀬ゼミも安全祈願祭に参加させて頂き、ありがたいことだと思った。地元の参加者が玉串を捧げるのに続いて、今瀬ゼミもゼミ生を代表して澤井が前に出て玉串を捧げた。木の枝でできた玉串を宮司さんから頂き、お供えしてから２礼２拍手１礼の一連の流れを行った。その後、小さなお皿に少しのお酒を全員が飲んだ。

3.2.6 「アオーレ長岡」でのとちお祭の事前ＰＲ活動

8 月 19 日、「とちお祭」の事前告知のＰＲイベントが「シティホールプラザ アオーレ長岡」（長岡駅前の長岡市役所本庁舎）で開催された。アオーレ長岡のアリーナで栃尾の幼稚園児などが、とちお祭当日に行う太鼓の演奏を行ったり、流れる音楽に沿って踊ったりした。また、とちお祭に関するパネル展も同時に開催された。パネルは歴代のとちお祭のポスターが中心に飾られ、花火の絵や各年代の実際の写真なども展示された。樽みこしの実物やパンフレットも併せて置かれた。

とちお祭のチラシを配布

今瀬ゼミの主な作業は、とちお祭の案内チラシ約 200 枚を通行人に配布したり、パネル展用のパネルを設置する作業などであった。

長岡の中心街などからも人を呼びたいということから、アオーレ長岡で事前ＰＲ活動が行われたが、イベントの来場者は栃尾地域の方々が多かったため、既にとちお祭を知っている人が殆どであった。とちお祭を知ってもらうためには、祭を知らない人にも配っていった方が良いのではないかと思った。

3.2.7 とちお祭の事前準備

祭りの備品倉庫（大野倉庫）

8 月 6 日、とちお祭の開催に向けて、会場周辺で様々な事前準備の作業が行われた。主な作業内容は、備品倉庫（大野倉庫）から祭りののぼりや提灯、ロープ等をトラックに積み込んで運搬。のぼりを組み立てて、各所に設置。道路端で提灯をくくりつけるためのロープの取り付け、その取り付けで邪魔になってしまう木の枝の剪定、剪定で落ちた葉や枝の回収、そして、提灯の設置であった。

今瀬ゼミは、道の駅、祭りのメイン会場（秋葉公園）、仁和賀行進・大民踊流し・みこし渡御が行われる街なかの会

場（秋葉トンネル前の交差点付近）において、祭りの地元スタッフの方々と一緒に作業を行った。予算や人数がもっと多ければ、のぼりや提灯の設置場所を広げることが出来るのではないかと思った。

のぼりの組立・設置作業

提灯の取付作業

祭りの事前準備や後片付けなどの作業時に入らせて頂いた備品倉庫には、栃尾地域で行われる様々な祭りやイベントで使用される多くの備品が置かれていた。まさに、祭りの「裏方さん」でないと入れない場所であり、貴重な経験と勉強をさせて頂いた。

3.2.8 とちお祭の前日準備①（祭り全体）

8月22日には、「とちお祭」の前日準備として、祭りスタッフが栃尾観光協会のある「道の駅ルート290とちお」に朝9時に集合した後、各イベント会場の設営作業などが行われた。メイン会場での作業としては、ステージの掃き掃除、「全日本樽みこし綱引き選手権大会」競技場の雨よけのためのブルーシートがけ、テントや椅子など祭りで使う様々な備品の運搬等を行った。街なかの会場では、大民踊流しとみこし渡御の演奏ステージの設営や提灯付け等で行った。また、「大花火大会」の打上げ場所においては、「栃尾煙火協会」の方々が中心となって、花火打上げのための設営作業を行った（後述）。

今瀬ゼミは、祭りのメイン会場と街なかの会場で作業をするグループと、花火の打上げ場所で作業をするグループに別れて活動した。この日は、一部のゼミ生が事前準備の集合時間9時に遅刻してしまい、とちお祭の関係者の方々に多大なご迷惑をおかけしてしまった。この点は反省すべき点であり、信用の失墜につながる。このことを重く受け止め、今後こういった事がないよう、注意していきたいと、今瀬先生の前でゼミ生全員で確認し合った。

作業後の集合写真

3.2.9 とちお祭の前日準備②（大花火大会の事前準備）

花火の打上げの事前準備は、打上げ場所が山の頂上にあるため、その山での作業がメインであった。花火打上げの祭に使う発電機、防火用噴霧器などを運んだり、落ちてきた花火の燃えカスが枯れ草等に燃え移らないように掃いたり（掃いた枯葉はまとめて火がつかないようにシートをかぶせておいた）、打上げ合図を出すためのテントを設置する、といったものである。防火用の簡易プールを作り、山の麓から水を運んできて入れる作業も行った。今瀬ゼミは、そうした一連の準備作業を栃尾煙火協会のスタッフの方々と

花火を打ち上げる筒
（雨が入らないように洗面器をかけビニールで覆われている）

一緒になって行った。

花火打上げ場所のテント設置作業

打上げ場所の設営では、必要な備品の運び込み等が行われるまでは栃尾観光協会等の祭りスタッフも一緒であったが、その後の設営作業や打上げ、後片付けの段階では、完全に花火関係の方々（高見氏をリーダーとする「栃尾煙火協会」のメンバーと打上げる花火師）だけになったのが印象的であった。

組立てた防火水槽に
運搬した水を入れる作業

花火の打上げ用の単管設営は既に行われており、花火の筒には雨よけ(洗面器のようなもの)もかぶせられていた。雨の心配もあったために筒の事前設置は一部で、打上げ当日に花火師により筒が増やされた。昼には、栃尾煙火協会の高見氏に昼食をご馳走になりながら、花火に関する様々な知識を教えて頂いた。例えば、花火の筒には幾つかの種類があり（鉄、ステンレス、プラスチックのようなもの)、筒によって打上げ時の音も変わってくるそうで、栃尾ではステンレスが使われていた。

立入禁止看板の設置作業

花火打上げの裏方作業は、通常は関わることができないものであり､非常に貴重な経験で良い勉強となった｡また、お手伝いをさせて頂く中で、火災など安全対策に力を入れていることを肌身で実感した。ただ、後継者への引継ぎが課題だとも伺った。

3.2.10 とちお祭１日目

８月 23 日（土)､「とちお祭」当日の１日目は、祭りスタッフがメイン会場の秋葉公園に朝８時に集合して、全体打合せが行われた後、会場整備や運営の作業に入った。今瀬ゼミもボランティア学生と共にメンバー10 名が長岡大学に朝７時に集合した後に、栃尾に移動して朝８時の全体打合せに合流した（長岡大学からとちお祭の会場までは自動車で約 30 分の距離)。

今瀬ゼミ生とボランティア学生
(大学で出発前に今瀬先生撮影)

我々ゼミ生たちは６月から祭りの前までと同様に、当日も祭りの裏方作業を行いながら手分けして、祭りの「裏方」作業や「表方」イベントの様子を撮影・録音して記録し続けた（機材は、デジタルカメラ３台、ビデオカメラ１台、ＩＣレコーダー１台を使用)。

雨で濡れた会場のレーキがけ

最初の裏方作業は、雨予防で前日からかぶせておいた「全日本樽みこし綱引き選手権大会」競技場のブルーシートを畳むことであった。今瀬ゼミも地元スタッフの方々と一緒にブルーシートを畳んだ後、雨で濡れた地面をスポンジを使って水分を取り除き、その後レーキがけをした。また、手分けして、メイン会場にテントを張り、机や椅子、屋台の備品、ゴミ箱などを運び、設置する作業を行った。子供用のアトラクションコーナーなどの設営も行った。

直前まで降っていた雨が上がり、会場整備も無事に間に合って、午前 10 時から「オープニングイベント」を開始することができた。正午になると、「全日本少年少女樽みこし綱引き選手権大会」の受付が開始され、午後１時から３時過ぎまで行われた。「全日本樽みこし綱引き選手権大会」は２日間行われるが、１日目は少年少女部門、２日目はチャレンジシップとチャンピオンシップの大人部門となっている。

今瀬ゼミは会場の整備・運営のお手伝いをしながら、手分けして各イベントの様子をカメラやビデオ等で記録し続けた。

また、ゼミ生２人（澤井、太刀川）と今瀬先生は前日準備時と同様に、途中の時間、山の上にある花火打上げ場所において花火の設営作業も行った。作業は前日準備に引き続き、枯葉を掃いたり、照明の設営、道路にはみだした枝の撤去、「立入禁止」看板の設置などのお手伝いであった。

日中のイベントが一段落してくると、今度は夜に中心市街地（商店街）で行われる「大民踊流し」と「みこし渡御」の準備に移った。祭りのスタッフは、午後５時に「とちパル」（栃尾秋葉門前商工プラザ）の３階にある控え室に集合し、夕食を取ってから、作業段取りや役割分担等の打合せを行った。打合せ終了後、６時前に祭りのスタッフは、大民踊流しとみこし渡御が行われる会場の各持ち場についた。

※「とちパル」は栃尾の中心市街地の真ん中にあり、栃尾の特産品を販売する休憩スペース等を持った街なか拠点機能となっている。

「大民踊流し」は、６時半に受付を開始し、６時 45 分には参加団体が踊りの開始位置に整列完了するよう誘導した。そして、7 時から栃尾観光協会会長や長岡市長の挨拶の後、大民踊流しがスタートした。今年は 30 以上の団体が参加し、盛り上がりを見せた。８時半に大民踊流しが終了すると同時に、祭りのスタッフは、各参加団体のプラカードを回収

オープニングイベントの様子

子供用アトラクション
コーナーでヨーヨー販売

スタッフ控え室で打合せ

大民踊流しの様子
（様々な格好をした人達がいた）

みこし渡御の様子
（様々な神輿を担いでいた）

し、本部の片付けや道路の清掃、交通整理・誘導を行い（みこし渡御終了迄）、10 時前には後片付け、清掃、通行止め看板・マセ等を回収して終了となった。

一方、「みこし渡御」は、大民踊流しスタート時の７時から受付を開始した。渡御の参加では一人千円が支払われ、各参加団体はお酒などを持ってきていた。参加者は、広く栃尾内外からあった。８時になると決められた場所に移動・準備をして、８時半の大民踊流し終了と同時に、同じ場所で渡御スタートとなった。「とちお祭」のみこし渡御では、「ほだれ様」のみこしが特徴的である（道祖神の一つである男根形のほだれ様（穂垂れ）は、農耕と人の実りを守る神様）。祭りの熱気は夜遅くまで続き、10 時 15 分にみこし渡御が終了した。

今瀬ゼミの裏方としての主な役割は、大民踊流しのルート折り返し地点でサイリウムを使用した参加者の誘導、みこし渡御で使用するトラックのステージ設営（各参加団体が着用している着物のデザインを発表するためのもの）、みこし渡御の参加受付とそのための設備設置、トイレの案内、仮設トイレの水補給、会場の電灯のブレーカー切り替え、みこし渡御終了後の直会の準備手伝い（あぶらげ、箸、皿、ドリンク分配やブルーシートがけ）等であった。

3.2.11 とちお祭２日目① ～全日本樽みこし綱引き選手権大会～

８月 24 日（日）、「とちお祭」当日の２日目は、午前中に「全日本樽みこし綱引き選手権大会」の大人部門、午後に「仁和賀（にわか）行進」、夜に「大花火大会」が行われた。

「全日本樽みこし綱引き選手権大会」の大人部門には、チャレンジシップとチャンピオンシップがある。チャレンジシップには、栃尾の外から学生ボランティア団体の「IVUSA」が組織的に参加しており、その学生たちが複数のチームを編成して競技に参加した。各チームの入場時には、IVUSA の学生たちが並んで 20～30 メートル程の人の道を作って、そこをハイタッチしながら競技場に入り、競技中は互いに声援を送って会場を大いに盛り上げた。

全日本樽みこし綱引き選手権大会の様子

樽みこし綱引きの入場時の様子

※「IVUSA」は、特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会の略称。IVUSA は、中越大震災で大きな被害があった栃尾地域の仮設住宅の支援を行った縁で、その後も栃尾との交流を続けている。

今瀬ゼミは、「とちお祭」では「裏方」のスタッフとして諸作業を担っているが、前述のように、先の８月６日の「全日本樽みこし綱引き選手権大会」説明会に際して、「今瀬ゼミも出場しませんか」とお声がけを頂いたことから、急遽、当日は「表方」としての出場も行うことになった。チャレンジシップへの参加は、「IVUSA」の学生からなる７チームと栃尾の地元１チームに、今瀬ゼミが加わったことで全８チームとなった。我々今瀬ゼミは、ゼミ生、長岡大学ボランティア学生、今瀬先生の８名で即席のチームを作り、当日まで練習もせずに綱引き大会に臨んだため、勝てるとは思っていなかった。ところが、「IVUSA」のチームを次々と倒し、決勝

戦まで進んだ。実況の方が今瀬先生を弄るなど面白い場面もあり、祭りの「裏方」として参加しているとちお祭で「表方」としても楽しんだ。最後の決勝戦では地元の年輩チームにあっさりと負け、栃尾の中高年の方々の力と元気の良さを知った。

「全日本樽みこし綱引き選手権大会」は、当初、非常に激しい競技と聞いていて、敷居の高さを感じていたが、実際に参加してみると、怖さよりも興奮が上回るイベントであった。地元のもっと多くの若い世代にも、面白みを知ってもらうべきだと感じた。

3.2.12 とちお祭２日目② ～仁和賀行進～

「とちお祭」の２日目、「全日本樽みこし綱引き選手権大会」が終了し、午後になると、「仁和賀(にわか)行進」が開催された。「仁和賀行進」当日の裏方作業は次のようなものであった。祭りのスタッフが、午前 10 時にスタッフ控え室のとちパル３階に集合して打合せを行った後、10 時 15 分から会場設営等を行った。11 時から演技会場となる中心市街地の道路を通行止めにして交通整理・誘導を行うと共に、昼食を兼ねた直前打合せを行った。12 時には役員の配置が完了し、午後１時半に主催者の挨拶・開会宣言で仁和賀行進がスタートした。

仁和賀行進の様子

会場へ向かう途中の演技の様子

今年の仁和賀行進には、事前登録の６団体にリックスポーツや番外の栃尾観光協会も加わって８団体が参加した。仁和賀行進では、各参加団体が中心市街地の予め決められた場所から何度か踊りながら行進をして、メインとなる演技会場（秋葉トンネル前）に向かい、最後にその演技会場で各参加団体が順番に演技を披露して踊りを競い合った。各参加団体の演技は 5～15 分で、はじめは予定通り順調に進んだが、途中から雨が激しく降り出して、途中で一時中断する場面もあった。しかし、雨の中でも大勢の人たちが演技会場に留まって、演技を見続けて下さった。我々スタッフは雨にずぶ濡れになりながら、急いで雨よけの仮設テントを見学場所に設置した。

我々今瀬ゼミは、前述のように、栃尾本町区の方々に「本町の仁和賀行進で一緒に踊らないか」とお声をかけて頂いたことから、とちお祭の「裏方」作業の合間を縫って、仁和賀行進に「表方」としても参加させて頂いた。今瀬ゼミは昼食後に本町の方々と合流して、仁和賀行進の演技に加わり、事前に教えてもらっていた最後の部分だけを一緒に踊らせて頂いた。途中で降り始めた雨は、本町の発表の番になっても止むことはなかったが、踊りのテーマ「祝 60 周年とちお祭 本町 RETURNS ～ありのままで‥」を無事に披露することができた。また、今瀬ゼミでは本町の演技に参加する一方で、長岡大学の女性の学生（中島氏）と職員（恩田氏）にボランティア協力をお願いして、番外として演技した栃尾観光協会の男性踊り手の

お化粧のお手伝いの様子

お化粧（仮装）のお手伝いをした。

そして、仁和賀行進の参加団体すべての演技が終了した後は、すぐに会場の撤去作業や清掃作業を行って、次の「大花火大会」の会場設営などに向かった。

今年の仁和賀行進は参加団体が少なかったが、どこの団体の踊りも活気があり、雨の中でも見物客が多かった。今瀬ゼミとしても、演技に参加させて頂き、貴重な経験をすることができた。

3.2.13 とちお祭２日目③ ～大花火大会～

「仁和賀行進」が終了した後、祭りのスタッフは仁和賀行進で使用した、テント、机、椅子、仮設トイレ、音響設備などを「大花火大会」の見学側の会場本部となる小学校の校庭に運んで設置した。道路侵入禁止標識も会場周辺に移動して設置し直した。そうした作業を今瀬ゼミも一緒になって行った。

ゼミ生がヘルメットを
装着している様子

その後５時半に、祭りのスタッフと花火師たちは、花火会場近くの食堂（丸五食堂）に集合して、食事をしながら打合せを行った。山の上の花火打上げ場所で作業を手伝う今瀬ゼミのゼミ生２人（澤井、太刀川）と今瀬先生は、頭にかぶるヘルメットと照明を貸して頂き、リーダーの栃尾煙火協会顧問の高見氏から注意事項を伺った。そして、打合せ後６時過ぎから、スタッフはそれぞれの持ち場に移動して配置についた。今瀬ゼミも、山の上の花火打上げ場所と花火見学側の会場本部の二手に分かれて持ち場についた。

山の上の花火打上げ場所では、栃尾煙火協会のスタッフが、花火の筒の近くに設置したテントや小屋に居て、そこから花火の番付に従って花火師が花火に点火するための合図を送る作業を行った。

打ち上げる花火ごとに名称や寄附者名などを会場本部（見学側）にいるアナウンサーがマイクで読み上げる。その様子がラジオ放送（ＦＭながおか）で流される。それを聞きながら、秒単位でちょうどのタイミングを見計らって点火の合図をするのである。今瀬ゼミでは、今瀬先生がその合図の手伝いを行う一方、ゼミ生は打ち上げの様子をビデオや写真に撮って記録した。

花火打上げ場所は、山の頂上と少し下った場所の２か所にあり、頂上では大型の花火やスターマインが、下の場所では小型のものが打ち上げられた。ゼミ生は、ラジオや懐中電灯等の最終確認時に電池切れのトラブルが起こったため、２箇所の打上げ場所を２回ほど往復して電池を届けに行った。花火の筒の近くには、花火の配線が地面にのばしてあり、踏んだりしてしまうと配線が切れ、花火があがらなくなってしまう可能性があるため、踏まないように気を付けての移動であった。

夜７時半になると花火の打上げが始まった。花火の番付に従って、栃尾煙火協会のスタッフが、「何番、何々、点火」と言って花火師に指示を出し、打ち上げていった。

花火は、点火の合図を送る場所から筒まで、近いものでは10m程度しか離れていないところで打上げられるものもあった。そのため、花火が筒の中からごう音と共に火花を出しながら打ち上がり、とても迫力があった。ほぼ垂直に上がり、頭上の真上で花開く花火は

美しく圧巻である一方、花火の燃えカスが降ってきて非常に緊張感があった。時折、花火の燃えカスは雨のように降り注いでくることもあり、準備段階で行った火災対策の枯葉を掃くという作業の重要性が良く分かった。

花火番付に載ったすべての花火の打上げが終わり、９時に花火大会が終了すると､花火師たちが花火の筒を撤収し、大きな燃え殻だけを拾い集めて､車に乗せて帰っていった。

頭上で美しく打ち上がる花火

花火の打上げから筒の撤収などの作業までは、花火師のみが行うことになっている｡花火師以外の祭りスタッフ(栃尾煙火協会と今瀬ゼミ）は、その間、点火の合図を送るテントや小屋の中から、絶対に一歩も外に出てはいけないことになっていた。花火師が撤収を終わり、打上げ場所を後にして帰っていったのを確認してから、祭りスタッフはテントや小屋から外に出て、防火水槽の水を抜き、10 時半頃に下山した。

花火が打ちあがる瞬間
（火柱が立っている）

大花火大会の終了後は、花火会場近くの食堂（丸五食堂）で祭り打上げの懇親会があり、今瀬ゼミも参加してご馳走になった。その後、11 時半頃には抜けさせて頂き、長岡大学に戻って家路に着いた。花火の打上げ場所での裏方作業では、非常に貴重な経験をさせて頂いた。感謝を申し上げるとともに、こういった裏側の部分をしっかり伝えていかなければいけないと思った。

3.2.14 とちお祭の後片付け

８月 25 日（月）の「とちお祭」翌日、祭りのスタッフは当日にやり残した片付け作業を行った。今瀬ゼミも朝９時から、祭り会場全体と山の上の花火打上げ場所に分かれて片づけを行った。

祭り会場全体の片付けでは､「オープニングイベント」や「全日本樽みこし綱引き選手権大会」等があったメイン会場（秋葉公園）や観光協会のある道の駅において、主にテントの骨組みなどの回収・運搬や雨で濡れた提灯などを乾かす作業を行った。

テントはすぐに回収できるように各骨組みに結んであったが、それらをきちんと結び直し、２台のトラックの荷台に積んで祭りの備品倉庫（秋葉公園から大野倉庫までは車で 5 分程の距離）まで運んだ。それを流れ作業のように行い、倉庫を何度か行き来した。雨で濡れた物を乾かす作業では、提灯は紐でつなげてカーテンのようにぶら下げて乾かした。また、屋根と骨組みが一体の簡易タープを建てて、水分を落としていった。乾いたテントから次々と閉まっていった。

そうした片付け作業の中では、ハサミが見当たらず、地元スタッフの方がライターで紐を溶かして切ったりしていて、知恵を学ぶ場面もあった。運搬の車の中では、就職活動や大学のことを話しながらの移動で、ゼミ生にとって非常に有意義な時間であった。

一方、山の上の花火打上げ場所の片付けでは、辺り一体に散らかったままになっていた花火の殻を拾う作業がメインであった。他にテントの片付けや防火水槽を返却するなどの作業があったが、花火の殻を拾う作業が一番大変であった。打上げ時に、花火の筒に被せ

てあった銀紙等も地面に散らばっており、すべて拾わなくてはならなかった。

すべての作業が終わると昼食をご馳走になり、昼食後は栃尾煙火協会顧問の高見氏に栃尾の温泉（おいらこの湯）に連れて行って頂いた。温泉では祭りの当日と前後日の４日間の疲れが一気に取れたように感じた。その後、高見氏のご自宅に招いて頂いて、花火に関するお話や栃尾の地域づくりに関するお話などを聞かせて頂いた。長岡と栃尾の合併時の話も聞かせて頂いて、地名の表記の問題などいろいろと課題があることが分かった。

後日には、今瀬ゼミが今年の花火の様子を撮影したビデオのＤＶＤを作成して、栃尾の方々に記録として見て頂けるように高見氏に届けた。

花火の燃え殻を拾う作業

燃え殻を集めたバケツ

3.2.15 とちお祭のアンケート調査結果

「とちお祭」の各イベント参加者を対象にして、祭り事務局の栃尾観光協会がアンケート調査を行った。その調査結果では、以下のような回答が見られた。

「仁和賀行進」では、参加団体を増やすよう働きかけて欲しいという声。仁和賀行進と同日に開催される「全日本樽みこし綱引き選手権大会」との兼ね合いで、どちらをメインとするのかという意見。一部の町内からは、仁和賀部会でも出ていたように、観客の少なさや参加団体の減少などから､今後の仁和賀部会の継続に疑問を持つ意見が出てきていた。

「オープニングイベント」では、昼食用に 500 円券を用意して頂いたものの、イベントの発表後に行くと屋台に食べ物が少なくて困った、という意見があがっていた。

「大民踊流し」では、踊りをする団体と団体の間隔をとるのが難しく、間隔が随分開いていたり、混んでいたりと、誘導の工夫を希望する意見が出ていた。また、大民踊流しの参加団体は多かったものの見物客が少ないのが残念、といった意見も出ていた。

「みこし渡御」では、半纏合わせの時に大民踊流しの音が大きくて司会者の声が聞こえにくかった、渡御は予定の時間を押してしまった、7 団体が全てつっかえることが無いようにどんどん前に進むべきだと思う、といった意見や、トイレはとちパルを使えてよかったと思う、といった意見が出ていた。

このように、アンケート調査の結果全体を通して、調査をしてみないと気づかない不満な点や要望、良かった点などが多くあるように思われた。また、参加していない団体からもアンケートを取ってみてはどうか、といった意見も出ており、参加団体だけでなく、それ以外からも意見を求め、一層の改善を行っていくことが大事なのではないかと感じた。

3.2.16 今瀬ゼミから「とちお祭」への３つの提言

今瀬ゼミでは、こうした「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」の現場での活動を通して、「とちお祭」への３つの提言を行った。最初の提言発表は、10 月 25 日・26 日の長岡大学「悠久祭」で開催したパネル展で行った。

１つ目は、「とちお祭」の裏方さんが、地元で再評価されるような仕掛けをし、地元の裏方さんが増えるようにすることである。今瀬ゼミの活動を通して、様々な「裏方」の活動や「表方」の活動に参加させて頂いてきた。それらの活動を通して感じるのは、我々ゼミ生にできることは地域が活性化することの潤滑油になるまでのことであって、地元に住んでいる方々の地域を変えようという力がなければ、やはり変わっていかないのではないかということだ。難しいことかもしれないが、その地域に住んでいる人でなくては出来ない事があるのではないだろうか。

２つ目は、とちお祭の「全日本樽みこし綱引き選手権大会」を、栃尾以外の地域の祭において「出前開催」し、樽みこし綱引きの魅力を多くの人に知ってもらうことである。我々ゼミ生も栃尾地域に関わるまでは、樽みこし綱引きを知らなかった。とちお祭のウリの一つである樽みこしを多くの人に知って頂くことが出来れば、とちお祭の誘客にもつながるのではないだろうか。

３つ目は、とちお祭の会場で地元の名物料理や家庭料理の屋台を多く出すようにして、域外からの来場者の楽しみを増やすことである。とちお祭の１日目、祭りのメイン会場（秋葉公園）には屋台が出店されていたが、たこ焼きや焼きそばなどの一般的なものを販売していたため、栃尾の名物「あぶらげ」（油揚げ）や、その他家庭料理を出すことで来客者の関心を深めることができるのではないだろうか。

我々今瀬ゼミでは、以上の事に着目し、次年度の活動をどういったものにしていくのか、考えていきたい。

■今瀬政司ゼミナールの「とちお祭」への３つの提言（2014 年 10 月 25 日公表）

提言１.「とちお祭」で準備・運営・片付けなどを行う「裏方さん」の大変さ、大事さ、面白さが地元で再評価されるような仕掛けをして、「裏方さん」（特に、若い人）が増えるようにしていくこと。

提言２. とちお祭の「全日本樽みこし綱引き選手権大会」を栃尾以外の地域の祭において出前開催すること。それにより、樽みこし綱引きの魅力を栃尾内外に波及的に広く知ってもらうこと。

提言３. とちお祭の会場で、地元商店や料理上手な家庭の方などの力を借り、地元の名物料理や家庭料理などの屋台を多く出すようにして、域外からの来場者の楽しみを増やすこと。

3.2.17 とちお祭のイベントの「出前開催」（ＰＲ活動）

今年度の長岡大学の学園祭「悠久祭」において、今瀬ゼミでは、とちお祭のイベント「仁和賀行進」を出前開催した。栃尾本町区の住民の方々（約 25 名）が長岡大学にお越し下さって、今瀬ゼミのゼミ生やボランティア学生たちと一緒に「栃尾本町仁和賀隊パフォーマ

ンス」を披露した。

悠久祭の前には、ゼミ生が踊りを覚えに栃尾に向かうなどして準備を進めた。とちお祭の本番に比べて、踊り手の人数は少なかったが、大勢の学生や大学周辺の地域の方々にも見て頂いて、本番に負けないイベントになったのでないだろうか。

栃尾本町仁和賀隊パフォーマンス（大学の校舎を背景に踊った）

また、出前開催により仁和賀行進を見て頂いたことで、多少なりとも「とちお祭」のアピールに繋がり、見て頂いた方々にとちお祭の雰囲気の一部を味わって頂けたのではないだろうか。そういった意味では、栃尾の現地においてだけでなく、長岡大学の学園祭「悠久祭」でも地域活性化に貢献する方法があることが改めて分かった。

栃尾本町と今瀬ゼミの集合写真

3.2.18 とちお祭大花火大会反省会

11 月 25 日、夜 7 時から栃尾の福田屋というお店で「第 60 回とちお祭大花火大会反省会」が行われ、栃尾煙火協会、栃尾観光協会、長岡市栃尾支所、そして今瀬ゼミなどが参加した。内容は、今年度の花火の決算報告、来年度の他地域への花火大会視察、花火の観覧会場になった小学校での後片付け、今年度から始まった「ＦＭながおか」による花火大会の放送などについて、話し合いが進められた。

栃尾煙火協会の会長である松生貞雄氏の挨拶から始まり、今年の大花火大会の決算に移った。花火の発注は小千谷煙火興業と阿部煙火工業に頼んでおり、また、多くの協賛金が集められ、今年の決算額は約１千万円であった。今年度に実施できなかった花火の視察については、「とちお祭の花火大会と同程度の規模の近くの地域が望ましいのではないか」との意見が出ていた。

反省会終了後には懇親会が行われた。懇親会では食事をしながら、大花火大会や祭り全体のことについて意見を交わした。また、今瀬ゼミの活動についても触れられて、参加者の方に今瀬ゼミで作成した展示パネル 21 枚の原稿を見て頂いた。

この反省会でも、会場は花火の準備や後片付けの際に利用したお店と同じように、「祭り会場のある地元のお店」であった。とちお祭の中でも、花火関連は地元の人が経営しているお店を使うことが多いようで、「地元の住民・店舗の方との関わりを大事にすること」が大花火大会の運営では特に重要なのではないかと感じた。

とちお祭大花火大会反省会の様子

3.2.19 学生による地域活性化プログラム成果発表会

12 月 6 日、長岡大学「学生による地域活性化プログラム成果発表会」（会場：ホテルニューオータニ長岡）において、今瀬ゼミの「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」の活動報告（成果発表）を行った。我々今瀬ゼミとしては、単に学習の一環としてだけでなく、栃尾と「とちお祭」の情報発信（広報ＰＲ）の一環であることも意識して行った。

発表で使用するパワーポイント資料や台本（発表原稿）、当日の配布資料の作成では、我々今瀬ゼミ生と今瀬先生が発表までの時間の許す限り、何度も修正を加えながら完成した。パワーポイントには、ゼミ生が「とちお祭」の各イベントや「悠久祭でのとちお祭の出前開催」で撮影したビデオ動画も編集して盛り込んだ。

長岡大学「学生による地域活性化プログラム成果発表会」

それらの発表の材料が揃ってから、ゼミ生で何度もプレゼンテーションの練習を行った。最高のプレゼンテーションにするために、アイコンタクトや手振り、声量をゼミ生で話し合いながら工夫し、発表時間が 12 分間と限られている中で話すペースを繰り返し調整した。発表会前日も深夜まで大学で発表の準備を行い、当日も早朝から大学に集合し、昼の会場行きのバスが出るぎりぎりまで練習した。

今瀬ゼミ生の成果発表の様子

我々今瀬ゼミは 10 ゼミ中 2 番目に発表した。このような緊張感のある場所での発表は、社会に出れば数多くあるものであり、学生の我々には社会に羽ばたくための貴重な体験になったに違いない。数々の練習と努力の成果もあり、各ゼミ生が発表する箇所や役割をしっかりと担い、12 分以内に発表を収め、満足のいく成果発表を成し遂げることができた。

（今瀬ゼミ生発表順）

須田一聖

太刀川健太朗

澤井芳秀

五十嵐信彦

相山祐輝

発表後、アドバイザーの荒木氏と安達氏からご質問を頂いた。荒木氏からは、「秋葉公園（今年の祭りのメイン会場）は坂道を登らないと高齢者の方は見に行けないことから、中央公園に祭りの会場を移したいと考えているが、お客さんが少ない中どう感じられたか」との質問を受けた。ゼミ生を代表して澤井が、「想像していたよりも親子連れのお客さんがいる印象を受けましたが、これまで何回か祭りの会場を移動していると聞いています。高齢者が多くいらっしゃるには、会場を移動することも良いのかと思います」、と答えた。

続けて荒木氏からは、「道の駅の年間入場者は 55 万人と多いが、まちの中心部と離れており、とちお祭に上手く外からお客を入れる、という仕掛けを来年提案して頂けますか」、との質問を受けた。「私達が力になれるか分かりませんが、自分達の出来る事を力の限りやらせていただきたいと思います」、と答えた。

最後は、安達氏から頂いた「今瀬ゼミでは、とちお祭の会場で地元の名物料理や家庭料理の屋台を多く出すようにして域外からの来場者の楽しみを増やす、と提言をしていたが、何故そういった提言に至ったのか」との質問に対して、ゼミ生は「栃尾には“あぶらげ”などの名物料理があり、ゼミ生は栃尾に行くまで知らなかったので、そういったものを祭りの屋台で販売すれば、来場者の楽しみが増えるのではないかと思います」、と答えた。

また、荒木氏と安達氏からは、「中間レビューの時とは大違いでびっ

くりした」、「良くまとまっている」、「中間レビューよりもよく改善されている」などのお褒めの言葉を頂いて嬉しかった。以上のことから、成果発表会では文字どおりに、今瀬ゼミのとちお祭での活動の成果を報告する良い機会となった。また、会場参加者の方々に対しては、栃尾と「とちお祭」の情報発信（広報ＰＲ）に少しでもなったのではないかと思われる。

3.2.20 今瀬ゼミ活動の「栃尾タイムス」での記事掲載

12 月 5 日付の「栃尾タイムス」では、今瀬ゼミ生も参加させて頂いていた大花火大会反省会の様子を取り上げて頂いた。（※『栃尾タイムス』2014/12/5、2 面）

更に 12 月 15 日付の「栃尾タイムス」では、12 月 6 日に行われた成果発表会での今瀬ゼミの活動も 1 面で大きく紹介して記事にして頂いた。今瀬ゼミによる「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」のプレゼンテーションの様子や、アドバイザーの荒木氏と安達氏からの質問への受け答えの様子を大きく取り上げて頂いた。また、ゼミの活動が、文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」（大学ＣＯＣ事業）の一環として位置づけられたものであることも紹介して頂いた。（※「栃尾タイムス」2014/12/15、1 面）

我々の活動が記事になったことは形に残るような大きな成果であったといえる。今瀬ゼミの今までの活動が栃尾の方々に文字として目に映るということで、地元の人などが「とちお祭」にもっと興味がわくようになれば幸いである。

3.2.21 長岡大学悠久祭と長岡市内各所での巡回「パネル展示会」開催

今瀬ゼミでは、長岡大学の学園祭「悠久祭」（2014 年 10 月 25 日・26 日）において、「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」事業における活動報告を 20 枚のパネル（A１サイズ）に表現し、１つの教室を用いてパネル展示会を開催した。このパネル展では、今瀬ゼミで独自に作成したパネルに加えて、ＮＰＯ法人フォーラム栃尾熱都の佐藤昭氏からお借りした「とちお祭の歴史パネル」も同時に展示させて頂いた。

長岡大学「悠久祭」での
今瀬ゼミ「とちお祭」パネル展

また、前述したように、悠久祭ではとちお祭の出前開催「栃尾本町仁和賀隊パフォーマンス」を行ったが、その記録も 1 枚のパネル（A1 サイズ）にした。

そして、長岡市役所（栃尾支所商工観光課、市民協働推進室）と栃尾観光協会のご協力（協働）のもと、12 月以降、それらパネルを使って、長岡市内各所において巡回で「とちお祭りへの裏方参画と調査・情報発信」パネル展示会を開催している。2014 年 12 月 25 日～2015 年 1 月 28 日には「長岡市栃尾産業交流センターおりなす」（道の駅ルート 290 とちおに隣接）、2 月 2 日～13 日には「シティホールプラザ アオーレ長岡」（長岡市役所本庁舎）で開催した。この２箇所に続いて、今後も長岡市内の各種公共施設、スーパー・ショッピングモールなどで順次開催していく予定である。

我々今瀬ゼミが活動し、その証である展示パネルがこうして栃尾の地元や長岡市内各地の人々に見てもらう機会があるのはとても嬉しいことである。これからも、栃尾と「とちお祭」の良いところを情報発信できればと思う。

長岡市栃尾産業交流センターでの今瀬ゼミ「とちお祭」パネル展

■長岡市内で巡回 パネル展示会 開催

長岡大学 今瀬政司ゼミナール「とちお祭りへの裏方参画と調査・情報発信」パネル展（※展示パネルはＡ１サイズ 21 枚）

◎今瀬ゼミ 「とちお祭」パネル展 in 栃尾おりなす 開催

・日時： 2014 年 12 月 25 日(木)～2015 年 1 月 28 日(水) 9：00～16：00

・会場： 長岡市栃尾産業交流センターおりなす 展示プラザホール
（長岡市栃尾宮沢 1765 TEL:0258-51-1331（道の駅ルート 290 とちおに隣接））

・協力（協働）： 栃尾観光協会、長岡市役所（栃尾支所商工観光課）

◎今瀬ゼミ 「とちお祭」パネル展 in アオーレ長岡 開催

・日時： 2015 年 2 月 2 日(月)～2 月 13 日(金) 8:00～22:00

・会場： シティホールプラザ アオーレ長岡 西棟３階 ながおか市民協働センター
（長岡市大手通 1-4-10 長岡市役所本庁舎 TEL：0258-39-2020）

・協力（協働）：長岡市役所（栃尾支所商工観光課、市民協働推進室）、栃尾観光協会

※その他、長岡市内の各種公共施設、スーパー・ショッピングモール等で順次開催予定

シティホールプラザ アオーレ長岡（長岡市役所本庁舎）での今瀬ゼミ「とちお祭」パネル展

3.2.22 「とちお祭」と今瀬ゼミ活動のホームページでの情報発信

今瀬ゼミでは、「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」の活動報告（報告書、展示パネル、成果発表会資料、新聞記事等）などを随時、下記の今瀬政司研究室のホームページで公表している。我々ゼミ生の活動紹介としてだけでなく、栃尾への誘客など地域活性化に向けた栃尾と「とちお祭」の情報発信（広報ＰＲ）に役立てばと思っている。

■今瀬政司研究室ホームページ（今瀬ゼミの活動報告等を随時掲載）
http://sicnpo.jp/imase-nagaokauniv/

4. 今瀬ゼミ活動の「栃尾タイムス」掲載記事

栃尾タイムス

第1853号　平成２６年１２月５日（金曜日）　2014年

とちお祭り花火打ち上げ反省会
長岡大学・今瀬ゼミ協力に感謝

松生貞雄会長が花火打ち上げの感謝を述べる

栃尾煙火協会（松生貞雄会長）は、第60回とちお祭大花火大会の決算が出たことを受け11月25日、谷内・福田屋において反省会を開いた。

開会にあたり松生会長は「本当に厳しい中でしたが、皆さんからご協力を沢山頂き、素晴らしい花火を上げることが出来ました」と感謝を述べるとともに「今回は長岡大学から今瀬先生はじめ学生の皆様から多大なご協力を頂きました。先生は〝勉強させて頂いた〟と話されましたが、現場を見る中で、今後も大きな新しい力を我々の中に加えて頂き、より素晴らしい花火が毎年上げられるよう、力添えを頂きたいと思います」とお礼を述べた。

井田事務局長が「今年は今瀬ゼミの方々から裏方として、祭り全般にわたってお手伝い頂き、特に花火については上げるところの裏方までヘルメットをかぶってやって頂き、本当に有難うございました」と経過報告とお礼を述べ、『FMながおか』の実況中継について、次年度も継続して実施していく方針を確認した。

また最近、近郷花火会場の視察が出来なかったことから、来年度はとちお祭の前に実施することを決め、事務局に一任。栃尾煙火協会として、来年2月7日に実施する『第30回遊雪まつり』前夜祭の花火大会に4万円を拠出することを決めた。

最後に、とちお祭り花火大会に協力された長岡大学の今瀬政司准教授が「先日上越市であった内閣府の講演において、とちお祭のお手伝いのことを紹介させて頂きました。学生達の最初の企画が〝長岡とか市外から栃尾に誘客したい〟というところから始まった訳ですので、少しずつでも栃尾のことを色んな方に知って頂くお手伝いを今後も続けて行ければと思っています」と述べ、ホームページも立ち上げ、12月6日ニューオータニ長岡NCホール（開会午後1時）で成果発表を行なうためのプレゼン資料を作っていること等を報告した。

購読料１カ月650円

栃尾タイムス

発行
栃尾タイムス社
新潟県長岡市仲子町1−6
TEL 0258（52）2334
FAX 0258（53）5161
（昭和38年10月31日
第三種郵便物認可）
編集発行人
澁谷俊隆

第1854号　平成２６年１２月15日（月曜日）　2014年　毎月5.15.25日発行

学生による地域活性化プログラム

「とちお祭への裏方参画と調査」
長岡大学・今瀬ゼミが成果発表

今瀬ゼミ生５人が「とちお祭り」行事の映像を交え発表

長岡大学の長岡地域《創造人材》養成プログラム「学生による地域活性化プログラム」平成26年度成果発表会が12月６日、ホテルニューオータニ長岡NCホールで開かれ、10のゼミが参加。栃尾地域を題材に取り上げた、今瀬政司ゼミ生も『とちお祭への裏方参画と調査・情報発信』と題し発表を行った。

同プログラムは平成25年８月、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」＝大学COC事業に採択された。同事業は大学が自治体等と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進めて、地域コミュニティの中核的存在（課題解決に資する人材・情報・技術の集積拠点）となり、地域コミュニティの再生・活性化の核となる大学へと、自ら改革することを支援する事業。

対象地域は、平成17年から22年の間に11市町村が合併した長岡地域で、地域課題は①産業活性化（産業の活性化による地域経済の発展）②市民協働による社会課題解決（少子高齢化・環境問題等の社会諸問題の解決）③地域・コミュニティ活性化（地域社会の喫緊の課題）

開会にあたり、内藤敏樹学長は「学生が地域社会の中に入って課題を見つけ出し、それに対する取り組みを自分の行動を通じて行なう、講義というより実践活動に重点をおいている。我々大学が地域のために役立つことは勿論、体験した学生が社会において実践活動できる人間になることを期待し実践して来ました」と挨拶した。

今瀬ゼミは「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信～長岡・栃尾地域を元気にするために～」と題して五十嵐信彦さん、澤井芳秀さん、須田一聖さん相山祐輝さん、太刀川健太朗さんの５人がそれぞれ映像を交えプレゼン。「多くの関係機関と市民協働で活動を行うことに力を入れ取り組んで来ました」と述べ、５つの活動に取り組んだことを発表。

「我々ゼミ生で企画書作成から始め、当初は〝長岡駅から過疎地をつなぐ〟というものを様々な協力機関と相談し貴重な助言やアドバイスを頂き、幾度か変更して現在の企画『とちお祭』に出合いました。祭りは１９５５年から始まり今年60周年を迎え、２日間で様々なイベントを行い地域を盛り上げています」と報告し、次の３つのイベントを推薦。

一つは『全日本樽みこし綱引き選手権大会』。全国でも珍しい、酒樽を積んだみこしを力強く引き合う大会。

二つ目は『仁和賀行進』。参加団体がパフォーマンスを行ない市中を練り歩き、各町内の特色ある出し物を披露。

三つ目は『大花火大会』。山の上から上がる美しい花火を見ることが出来る―と花火打上近くで撮影した映像を流した。

裏方としての活動で、とちお祭の準備段階から様々な会に参加。仁和賀行進の部会で「参加団体が減っている。来年もやれるか」という意見を聞き、栃尾過疎化の現実を知った。印象的に感じた祭りの結団式では、多くの関係者が出席。３週間ほど前から会場周辺のＰＲ用の提灯や幟を設置したが、「予算や人数がもっと多かったら設置場所を広げられると思った」と感想を語った。

ゼミ生は、栃尾本町区の仁和賀行進の準備会や練習にも参加。その中で、「集まって何かをやるということで、同じ地区の人との付き合いが深くなる」と感じ、栃尾本町以外の地域がどれほど活気づいているかが気になったという。

昔のとちお祭の写真を見て、昔のような参加人数には及ばないが、親子連れなど多くの方が訪れ、大民踊流しは30以上の団体が参加して盛り上がりを見せた。また、山の上の花火打ち上げ場所で打ち上げ準備、撮影や合図、約６００リットルの水を山の上に上げて防火水槽に入れ、落葉の清掃などを行ない、火災など安全対策に力を入れていると実感。栃尾煙火協会の高見力さんの下、作業の手際良さが印象に残ったが「後継者への引き継ぎが課題だ」と伺った。そして翌日、燃え殻回収など行なった。

表方として祭り当日に、裏方とともに栃尾本町区の仁和賀行進に参加。雨の中、ずぶ濡れになって踊ったが、多くの見物客から見てもらった。後日、長岡大学『悠久祭』で、今瀬ゼミと栃尾本町区の合同「仁和賀パフォーマンス」を披露し、本番に負けないイベントになった。

【今瀬ゼミからの提言】

①とちお祭で準備、運営、片付けなど行なう裏方さんが地元で評価されるような仕掛けをし、地元の裏方さんも見られる祭にする。

②樽みこしを栃尾以外の地域の祭に出前開催し「樽みこし綱引き大会」を多くの人に知ってもらう。

③とちお祭の会場で地元名物料理や家庭料理の屋台を多く出すよう にし、地域外の来場者の楽しみを増やす。

発表後、アドバイザーの栃尾支所商工観光課・荒木隆観光係長は「素晴らしいプレゼンで、10月の時とは別物で感動しました。とちお祭を始めから手伝って頂き、非常に感謝しております。樽みこし選手権大会に出て頂いたり、裏方作業をやって頂いたが、秋葉公園は坂道を登らないと高齢者の方は見に行けないというネックがあり、来年から中央公園の平場に会場を移したいと考えていますが、今年参加して、お客さんが少ない中どう感じられたか」と投げかけると学生たちは「想像していたより親子連れのお客さんがいる印象を受けましたが、これまで何回か会場を移動していると聞いています。やはり高齢者が多くいらっしゃるには、会場を移動することも良いのかと思います」と答えた。

続けて荒木観光係長が「道の駅の年間入場者は55万人と多いが、中心部と離れており、とちお祭に上手く外からお客を入れる、という仕掛けを来年提案して頂けますか」と要望すると、ゼミ生は「私達が力になれるか分かりませんが、自分達の出来る事を力の限りやらせて頂きたいと思います」と応えた。

5.今瀬政司ゼミナール「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」展示パネル

学校法人 中越学園 長岡大学

「地（知）の拠点整備事業」（大学 COC 事業）
長岡地域＜創造人材＞養成プログラム

文部科学省 地(知)の拠点

【パネル 1】 (C) 2014/10/25 今瀬ゼミ

今瀬政司ゼミナール

「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」事業 (2014 年度)

【紹介】長岡市栃尾「とちお祭」

（第 60 回：2014 年 8 月 23・24 日）

①全日本樽みこし綱引き選手権大会
②仁和賀(にわか)行進　③大民踊流し
④みこし渡御　⑤大花火大会
⑥その他、各種イベント

※詳細は栃尾観光協会まで
TEL：0258-51-1195
http://tochiokankou.jp

とちお祭で裏方さんになりました！

【活動１】裏方活動

長岡市栃尾の「とちお祭」に、「裏方」として活動に参画

①事前取材・ゼミ企画立案（4～6 月）
②祭の事前準備とＰＲ活動（6～8 月）
③直前設営と当日運営と片付け（8 月）

【活動２】表方活動

祭当日の「表方」にも参加

①樽みこし綱引きのチャレンジシップで今瀬ゼミが準優勝しました！
②仁和賀(にわか)行進で乱舞しました！

今瀬ゼミの活動目的

①ゼミ学生の学外現場における実践的な学習
②地元住民による「とちお祭」活性化に貢献
③栃尾への誘客など栃尾地域の活性化に貢献

【活動３】記録･調査･まとめ

①ゼミ活動結果の取りまとめ
②裏方だからこそ分かる「とちお祭」の本当の姿と栃尾地域の良さ・課題を記録、調査して取りまとめ

【活動４】情報発信･ＰＲ･提言

①裏方活動・表方活動と、記録・調査・まとめをもとにした情報発信
（報告書、パネル展示、ＨＰ、悠久祭、成果発表会、各種イベント等）
②今瀬ゼミと栃尾住民の方々の合同企画
「栃尾本町仁和賀(にわか)隊パフォーマンス」を悠久祭で開催（栃尾のＰＲ活動）
③「とちお祭」と栃尾地域の今後への提言

【今瀬ゼミ】五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、相山祐輝、太刀川健太朗（五十音順）
【担当教員】長岡大学経済経営学部 准教授 今瀬政司
TEL：0258-39-1907(研究室)、0258-39-1600(代)　E-mal：imase@nagaokauniv.ac.jp

学校法人 中越学園 長岡大学

「地（知）の拠点整備事業」（大学 COC 事業）
長岡地域＜創造人材＞養成プログラム

文部科学省 地(知)の拠点

【パネル 2】(C) 2014/10/25 今瀬ゼミ

今瀬政司ゼミナール「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」(2014 年度)

【ゼミ生】五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、相山祐輝、太刀川健太朗(五十音順)【教員】長岡大学経済経営学部准教授 今瀬政司

月日			今瀬ゼミナールの主な活動内容（2014年4月～10月）	学外
4月	14日	(月)	定例ゼミ授業（企画書立案等）	
	21日	(月)	定例ゼミ授業（企画書立案等）	
	28日	(月)	定例ゼミ授業（企画書立案等）	
5月	12日	(月)	定例ゼミ授業（企画書立案等）	
	19日	(月)	定例ゼミ授業（企画書立案等）	
	21日	(水)	長岡市政策企画課・市民協働推進室、NPO法人市民協働ネットワーク長岡に協力依頼（今瀬）	市本庁
	26日	(月)	定例ゼミ授業（企画書立案等）	
	29日	(木)	長岡市政策企画課・市民協働推進室・地域振興戦略部に協力依頼（今瀬）	市本庁
6月	2日	(月)	定例ゼミ授業（企画書立案等）	
	3日	(火)	長岡市地域振興戦略部に事前取材・企画相談	市本庁
	9日	(月)	長岡市栃尾支所地域振興課に事前取材・企画相談	栃尾
	10日	(火)	ゼミ打合せ会（企画書立案等）	
	16日	(月)	長岡市栃尾支所商工観光課（荒木様にアドバイザー依頼）と山の暮らし再生機構栃尾サテライトに事前取材・企画相談	栃尾
	17日	(火)	とちお祭「仁和賀部会」に出席＆取材	栃尾
	23日	(月)	長岡市市民協働推進室（安達様にアドバイザー依頼）に事前取材・企画相談	市本庁
	30日	(月)	定例ゼミ授業（とちお祭の裏方参画の進め方検討等）	
7月	4日	(金)	とちお祭「結団式」に出席＆取材	栃尾
	7日	(月)	定例ゼミ授業（とちお祭の裏方参画の進め方検討等）	
	14日	(月)	定例ゼミ授業（とちお祭の裏方参画の進め方検討等）	
	16日	(水)	栃尾観光協会と打合せ会（スケジュール・役割分担等調整）	栃尾
	21日	(月)	定例ゼミ授業（とちお祭の裏方参画の進め方検討等）	
	25日	(金)	とちお祭「仁和賀部会」に出席＆取材	栃尾
	28日	(月)	定例ゼミ授業（とちお祭の裏方参画の進め方検討等）	
	28日	(月)	栃尾本町区のとちお祭「仁和賀行進」の事前準備＆取材	栃尾
8月	6日	(水)	とちお祭の事前準備（会場と街中の設営等）＆取材	栃尾
	6日	(水)	とちお祭「全日本樽みこし綱引き選手権大会」説明会に出席＆取材	栃尾
	18日	(月)	とちお祭「安全祈願祭」に出席＆取材	栃尾
	19日	(火)	とちお祭の事前告知（長岡駅前アオーレにてチラシ配布等）＆取材	栃尾
	20日	(水)	栃尾本町区のとちお祭「仁和賀行進」の練習会出席＆取材	栃尾
	21日	(木)	保健所検査（現地不参加）	
	22日	(金)	とちお祭の前日準備（会場と花火打上げ場の設営等）＆取材	栃尾
	23日	(土)	とちお祭当日（裏方運営＆取材）	栃尾
	24日	(日)	とちお祭当日（裏方運営＆樽みこし綱引き参加＆仁和賀行進参加＆取材）	栃尾
	25日	(月)	とちお祭の後片付け（会場と花火打上げ場の片付け）＆取材	栃尾
9月	3日	(水)	ゼミ打合せ会（報告書作成＆パワーポイント資料作成）	
	10日	(水)	ゼミ打合せ会（報告書作成＆パワーポイント資料作成）	
	17日	(水)	ゼミ打合せ会（報告書作成＆パワーポイント資料作成）	
	24日	(水)	ゼミ打合せ会（報告書作成＆パワーポイント資料作成）	
10月	1日	(水)	ゼミ打合せ会（報告書作成＆パワーポイント資料作成＆パネル作成）	
	2日	(水)	ゼミ打合せ会（報告書作成＆パワーポイント資料作成＆パネル作成）	
	6日	(月)	長岡市市民協働推進室で中間レビュー（中間報告書＆パワーポイント資料提出）、長岡市政策企画課と地域戦略部に報告	市本庁
	8日	(水)	ゼミ打合せ会（報告書作成＆パワーポイント資料作成＆パネル作成）	
	13日	(月)	定例ゼミ授業（報告書・パネル等作成打合せ、第2回中間レビュー練習）	
	14日	(火)	ゼミ打合せ会（報告書作成＆パワーポイント資料作成＆パネル作成）	
	15日	(水)	ゼミ打合せ会（報告書作成＆パワーポイント資料作成＆パネル作成）	
	16日	(木)	ゼミ打合せ会（報告書作成＆パワーポイント資料作成＆パネル作成）	
	20日	(月)	長岡市栃尾支所で中間レビュー（中間報告書＆パワーポイント資料提出）、栃尾観光協会に報告	栃尾
	21日	(火)	ゼミ打合せ会（パネル作成）、栃尾本町区「仁和賀行進」の打合せ	栃尾
	22日	(水)	ゼミ打合せ会（パネル作成）	
	23日	(木)	ゼミ打合せ会（パネル作成）、NPO法人フォーラム栃尾熱都にとちお祭パネル借用	栃尾
	24日	(金)	ゼミ打合せ会（パネル作成）、今瀬ゼミ作成の展示パネル等の設置	
	25日	(土)	悠久祭にてパネル展示「とちお祭の裏側珍百景」	
	25日	(土)	悠久祭にて「栃尾本町仁和賀隊パフォーマンス」	
	26日	(日)	悠久祭にてパネル展示「とちお祭の裏側珍百景」	
	27日	(月)	悠久祭でのパネル等の後片付け	
12月	6日	(土)	地域活性化プログラムの成果発表会（ホテルニューオータニ長岡）＜予定＞	

「とちお祭」が長岡大学悠久祭にやって来る！
～長岡・栃尾地域を元気にするために～

必見！驚き！大笑い！
「栃尾本町仁和賀隊パフォーマンス」

■**主催**：今瀬ゼミナールと栃尾の方々

■**日時**：2014 年 10 月 25 日（土）
12:45～13:00 長岡大学玄関広場

■**内容**：栃尾地域で 60 年の歴史を持つ「とちお祭」。その最大の呼び物が「仁和賀(にわか)行進」（踊り）。栃尾住民の方々 25 名ほどがご来校下さり、ゼミ生やボランティア学生たちと一緒に、仁和賀行進の 60 周年記念、合同パフォーマンスを行います。テーマは、「祝 60 周年とちお祭 本町 Returns ～ありのままで」。「とちお祭」と栃尾地域の素晴らしさを見て、驚いて下さい。**踊りへの乱入、大歓迎！**

とちお祭で裏方さんになりました！
パネル展「とちお祭の裏側珍百景」

■**主催**：今瀬ゼミナール

■**日時**：2014 年 10 月 25 日（土）、26 日（日）10:00～17:00
長岡大学 242 教室

■**内容**：「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」事業での活動成果を報告します。（①裏方活動、②表方活動、③記録・調査・まとめ、④情報発信・PR・提言）。裏方だからこそ分かる「とちお祭」の本当の姿（素晴らしさ）と、栃尾地域の良さ・課題を報告し、今後への提言を行います。

今瀬政司ゼミナール「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」(2014 年度)

【ゼミ生】五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、相山祐輝、太刀川健太朗(五十音順)【教員】長岡大学経済経営学部准教授 今瀬政司

事前取材および企画書立案

長岡市栃尾支所
商工観光課の荒木さん

・今瀬ゼミナールでは、４月から６月にかけて、ゼミで取り組む企画の立案を行った。
・何を行うのか明確になるまで、長岡市役所の本庁（市民協働推進室、地域振興戦略部、政策企画課）や栃尾支所（商工観光課、地域振興課）、NPO 法人市民協働ネットワーク長岡、公益財団法人山の暮らし再生機構 栃尾サテライトに訪問して、事前取材や企画書立案への相談に乗って頂いた。

・６月 16 日、栃尾支所への訪問時、商工観光課の荒木さんと栃尾サテライトの西沢さんにアドバイスを頂いて、「とちお祭の裏方」として参画させて頂くことに決まった。
・この時は、具体的にどういったことをさせて頂けるのか、全く見当がつかなかったが、その後、打ち合わせを重ねることでより明確になっていった。

企画書(第１案)

「長岡駅から過疎地域を繋ぐ」企画書（案）

１．目的
長岡の中心市街地から既存の交通網を利用し過疎地域を活性化させる。

２．内容
長岡駅から出ているバスを利用し、過疎地域に人を呼び込む。そして、その場で観光客などに地域にお金を落としてもらえるようなイベントや場所を地域の人と協力し用意する事をゼミで一貫して行う。
(1)長岡駅
駅やその周辺などで過疎地域の告知・広報活動を行う。また、バスを利用して過疎地域への観光を行ってもらえるような取組みを行う。
(2)地域での活動
イベントや店などを地域の方と協力して用意し観光面での魅力を高める。
(3)アンケート
市内の人や観光に来た人などにアンケートを行って改善点などを見つける。

何回か変更

企画書(中間案)　「栃尾」に焦点を当てる！

「長岡駅から栃尾地域を繋ぐ」企画書（案）

１．目的
長岡中心市街地から栃尾地域をつなげ人に流れを作る。

２．内容
(1)長岡市、栃尾地域の自治体に残っている、観光・交通等の資料を集計し足りない部分を補うアンケートを作成する。
(2)アンケートと集計した資料を参考に、イベントでのターゲット層を絞り込む。
(3)長岡・栃尾の自治体と協力し、長岡の市街地（アオーレ等）で栃尾地域を取り上げたイベントを行う。また、そのイベントで栃尾地域の広報・宣伝を行う等の活動で、長岡から栃尾への人の流れを作る。
(4)悠久祭にてイベント、資料の集計結果等をまとめたパネル展示を行う。
(5)最終報告のためのアンケート作成を行い集計し、成果発表会と報告書の準備をする。

何度か様々な方にアドバイスを頂くことで、
企画書が何度もバージョンアップしていった。

何回か変更

企画書(最終案)　「とちお祭」のみに焦点を当てる！

「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」企画書（案）

１．目的
栃尾地域の歴史や名産品などの観光・文化面をアピールし栃尾に向かう観光客を増やす事を目的とする。
２．内容
(1)長岡大学の学園祭である悠久祭などにおいて、「とちお祭」(８月 23・24 日) をまとめたパネル等の情報発信ツールを作成し、多くの人に発表、告知を行う事によって、地域の魅力を来場者に知ってもらい、栃尾と長岡各地間での交流人口を増やす。
(2)「とちお祭」の裏方として参画する。運営や準備段階から手伝える部分を探しながら、とちお祭に参画していく中で、栃尾の方達と協働で作業を行っていき、ゼミ生と地域の方の交流ができる場を増やす。
(3)パネル展示等の情報発信のために事前調査を行う。内容を「とちお祭」一点に絞り、深い内容になるようにする。祭のなりたちや現在の状況等を中心にまとめ、狭く深い内容とすることにより、見ごたえのある制作を目指す。
３．スケジュール等について
(1)「とちお祭」の準備が本格化する７月には、祭にどういった形で裏方参画するのかを調整、決定し、作業に入る。
(2)１０月に開催される悠久祭等に向け展示用パネルの準備をするため、とちお祭について調査する。
(3)１０月から１２月にかけて、栃尾地域の良い所を悠久祭と各地で情報発信する。
(4)とちお祭の終了後、８月から 12 月にかけて、報告書作成と成果発表をする。

学校法人 中越学園 長岡大学

「地（知）の拠点整備事業」（大学 COC 事業）
長岡地域＜創造人材＞養成プログラム

文部科学省 地(知)の拠点

【パネル 4】 (C) 2014/10/25 今瀬ゼミ

今瀬政司ゼミナール「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」(2014 年度)

【ゼミ生】五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、相山祐輝、太刀川健太朗(五十音順)【教員】長岡大学経済経営学部准教授 今瀬政司

ゼミナールとの関わり（協働）

栃尾地域

栃尾観光協会
（とちお祭事務局）

栃尾本町区

栃尾煙火協会

栃尾商工会

NPO 法人フォーラム栃尾熱都
長岡市栃尾地域 NPO 連絡協議会

公益財団法人山の暮らし再生機構
栃尾サテライト

等

長岡大学

今瀬ゼミナール

学生ボランティア

長岡市役所等

［市栃尾支所］
商工観光課
（アドバイザー：荒木 隆氏）
地域振興課

［市本庁］
市民協働推進室
（アドバイザー：安達一啓氏）
地域振興戦略部
政策企画課

ＮＰＯ法人
市民協働ネットワーク長岡

等

栃尾地域について

・栃尾地域は、新潟県中越地域の見附、三条、魚沼市などと隣接するところに位置している。
・2006 年に長岡市と合併し「長岡市栃尾」となる。

・名産物としては、油揚げ(あぶらげ)を筆頭に、米や地酒(景虎等)などがある。
・また、今回、関わった「とちお祭」でもファッションショーなども行われており、古くから繊維産業の町として栄えてきた。
・観光面では、数多くの祭などを中心として、歴史や文化面で非常に魅力的な土地になっている。

・一方、魅力的な観光資源を有しながらも、公共交通機関が殆ど無く（バスは１時間に１本ほど）、交通面での不便さを感じるところも多い。（今瀬ゼミナールの活動では、幾度も栃尾を訪問しているが、移動は主に車である。）
・また、裏方活動とともに、取材・調査を続ける中で、高齢化問題をはじめ、様々な社会的課題について話を聞くこともあった。

学校法人 中越学園 長岡大学

「地（知）の拠点整備事業」（大学 COC 事業）
長岡地域＜創造人材＞養成プログラム

文部科学省 地(知)の拠点

【パネル 5】(C)2014/10/25 今瀬ゼミ

今瀬政司ゼミナール「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」(2014 年度)

【ゼミ生】五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、相山祐輝、太刀川健太朗(五十音順)【教員】長岡大学経済経営学部准教授 今瀬政司

第60回 とちお祭
2014/8/23.24

今年(2014 年)で 60 周年を迎えるとちお祭とは？

- 2014 年度で 60 周年を迎えた「とちお祭」は、祭の多い栃尾地域でも特に大きな祭であり、様々な団体が参加する祭である。その歴史は古く、1955 年まで遡る。当時は「繊維まつり」と呼ばれ、祭が行われていた。その後、栃尾観光協会が 1980 年に発足し、その翌年に「繊維まつり」は当時のうま市と統合され、名前を「とちお祭」に変えた。
- 今年度は、「仁和賀(にわか)行進」「全日本樽みこし綱引き選手権大会」「大民踊流し」「みこし渡御」「大花火大会」「ミュージックアトラクション」「味のテント村」等、様々なイベントがあった。今瀬ゼミでも、イベントに参加して見ると、想像以上の面白さがあった。

今瀬ゼミでは、裏方さんの活動をしながら、取材・調査を行ってきました！！

1日目(23日/土)

内容	時間	会場	参加団体等
オープニングイベント			
ミュージックアトラクション	10:00~12:10	秋葉公園	みどり学童クラブとちおTAIKOキッズ 芳香幼稚園・栃尾天使幼稚園 双葉保育園・長岡向陵高校ダンス部 栃尾東小学校・栃尾南小学校 長岡大手高校ダンス部
味のテント村	10:00~15:00		栃尾市場組合 NPO法人フォーラム栃尾塾部
ゲームコーナー	10:00~15:00		
全日本少年少女樽みこし綱引き選手権大会	13:00~15:00		大野町城山キッズ・大野町天神キッズ 栄町ファイターズ・原町オールスターズ 原町スターバックス
大民謡流し	19:00~20:30	谷内1丁目 ～竜の下町	参加団体多数の為別記
みこし渡御	20:30~21:40	大布橋東詰交差点～ 秋葉ﾄﾝﾈﾙ東口交差点	東町御神楽・金町御燈篭神輿 栃尾原町四神神輿・新町万灯神輿 ほだれ神輿・越後栃尾秋葉神輿 美飾睦

2日目(24日/日)

内容	時間	会場	参加団体等
全日本樽みこし綱引き選手権大会	9:00~12:30	秋葉公園	
男子の部			大野町城山・栃尾保樽会・大野町天神 天下島・原町 黄龍・原町 翔龍 平成福祉会・IVUSAボーイズA/B
女子の部			善昌寺保育園・あささ おここ IVUSAガールズA/B
チャレンジシップ			ALWAYS/IVUSA A～Fチーム 今瀬ゼミナール
仁和賀行進	12:00~15:05	出雲通り ～終了後各町内へ	リックスポーツ・栃尾旭町区 谷内2丁目・谷内1丁目・栃尾本町区 同住会・栃尾新町区
大花火大会	19:30~21:00	栃尾東小学校～ 栃尾高校前防波堤 栃尾東小学校ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ 栄橋～巻渕橋間左側 (見物会場)	

とちお祭 二日間のイベントの流れ

とちお祭事務局 栃尾観光協会
〒940-0233
新潟県長岡市栃尾宮沢 1764 道の駅 R290 とちお内
E-mail info@tochiokankou.jp
電話番号 0258-51-1195
ホームページ https://www.tochiokankou.jp

今瀬政司ゼミナール「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」(2014 年度)

【ゼミ生】五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、相山祐輝、太刀川健太朗(五十音順)【教員】長岡大学経済経営学部准教授 今瀬政司

部会の様子

仁和賀部会の様子

・とちお祭の各イベントは、それぞれに部会などが各種団体・各地区等により構成され、企画・準備・運営がなされている。
・今瀬ゼミナールは、仁和賀行進を運営する「仁和賀部会」、全日本樽みこし綱引き選手権大会を運営する「樽みこし部会」などの打合せ会に出席させて頂き、併せて取材もさせて頂いた。

■第60回（2014年度）とちお祭役割分担表

プログラム	主　管
総括	事業部
オープニングイベント	事業部
みこし渡御	みこし連絡会
大民踊流し	事業部
全日本樽みこし綱引き選手権大会大会	商業青年部
仁和賀行進	事業部
大花火大会	煙火協会
広報・宣伝	事業部
本部（商工会館）	商工会
裏方協力者	長岡大学 今瀬政司ゼミナール

スタッフ体制
観光協会（事業部）（物産振興部）
商工会
織物組合
JA越後なかおか
長岡市栃尾支所商工観光課
シルバー
警備員
裏方協力者：長岡大学 今瀬政司ゼミナール

・今瀬ゼミナールがはじめて参加させて頂いた部会は、６月 17 日の「仁和賀部会」であった。仁和賀行進に参加する各地区の代表者が出席していた。ゼミ生が想像していたよりも、こじんまりとしたミーティングで、とちお祭の事務局の方と対面する形で、話し合うというよりも、事務的に連絡を行うといったような部会であった。
・また、この時、「仁和賀部会」の参加団体数が昔に比べて大幅に減少しているという話題も出て、“来年もとちお祭で仁和賀行進をやれるのか”、“来年は大幅に見直して、新たな取組みをすべきだ”、といった意見などが出ていた。栃尾地域の過疎化が進んでいることの現実を知った。

樽みこし部会の様子

・７月 25 日には、「仁和賀行進」の最終説明会が行われた。この日は、前回の部会よりも各地区から意見が多く出ていた印象を受けた。仁和賀行進で町内を練り歩くときの動きをどうするのかなど、細かく確認をしていた。
・また、この説明会に参加した目的の一つであった、栃尾本町の住民の方々への取材に関して、アポとりも無事に行うことができた。そして、７月 28 日には、栃尾本町の「仁和賀行進」の準備の様子を取材させて頂けた。

・８月６日には、「樽みこし部会」に出席して、その様子を取材させて頂いた。この日は、「全日本樽みこし綱引き選手権大会」についての最終説明会であった。
・今瀬ゼミナールは、とちお祭では「裏方さん」に徹するつもりであったが、この日、“樽みこし綱引きに参加してみないか”、と部会の方々から声をかけて頂き、樽みこし綱引きへの参加が決定した。

今瀬政司ゼミナール「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」(2014 年度)

【ゼミ生】五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、相山祐輝、太刀川健太朗(五十音順)【教員】長岡大学経済経営学部准教授 今瀬政司

事前準備の様子

のぼりを立てる作業

・８月６日、とちお祭の事前準備のお手伝いをさせて頂いた。
・秋葉公園（メイン会場）とその周辺近くの作業が殆どであった。予算や人数がもっと多ければ、のぼりの設置場所を広めるなど、より大掛かりな作業ができるのではないかと思った。

提灯の設置

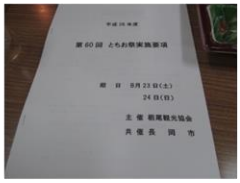
木の剪定

・上と左の写真は、とちお祭などのイベントを開催する時に使用される様々な備品を保管している倉庫である。この時以外にも、私たちは会場の設営や片付けの時に何度か倉庫を訪れた。
・まさに、イベントの「裏方さん」しか、足を踏み入れることがない場所である。

今瀬政司ゼミナール「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」(2014 年度)

【ゼミ生】五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、相山祐輝、太刀川健太朗(五十音順)【教員】長岡大学経済経営学部准教授 今瀬政司

とちお祭「結団式」に参加、本格スタート



・7月4日、とちお祭の「結団式」に参加させて頂いた。
・今までは部会の参加のみであったため、人数の多さに驚いた。

安全祈願祭に参加

・8月18日、「産業交流センターおりなす」のてまりホールにて、安全祈願祭が行われた。安全祈願祭の会場は、何回か変更されており、過去には、栃尾体育館前にて行われた年もあった。
・安全祈願祭の参加者は、とちお祭のイベントの代表者の方々が参加しているようであった。当日は宮司さん来られ、厳格な雰囲気の中で執り行われた。

とちお祭の事前PR活動

・8月19日、長岡市役所の「アオーレ」にて、とちお祭の事前PR活動が行われ、お手伝いをした。
・今瀬ゼミナールでは、とちお祭のチラシを配ったり、とちお祭の紹介パネル等の展示準備のお手伝いを行うなどした。
・当日、アオーレでは子供たちが演技を発表していた。観客はその子供の親御さんたちが殆どのようで、私たちがチラシを渡した人は、とちお祭について既に知っているようであった。今後、アオーレでPR活動をする祭には、もっとアオーレにいる人を多く巻き込むと良いと思った。

今瀬政司ゼミナール「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」(2014 年度)

【ゼミ生】五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、相山祐輝、太刀川健太朗(五十音順)【教員】長岡大学経済経営学部准教授 今瀬政司

前日準備の様子

・裏方としての活動の中で、前日準備では、各会場の設営や花火打ち上げ場所の設営を行った。

・上の左図は、秋葉公園にある「全日本樽みこし綱引き選手権大会」の会場である。当日、雨が降る恐れがあったため、事前にブルーシートを張った。
・上の中央図と右図は、前日の設営で雨対策としてテント等の備品を一箇所にまとめておいた様子である。

・山の上にある、花火打ち上げ会場にあがったゼミ生と今瀬先生は、花火を打ち上げるために必要な様々な作業をお手伝いした。

・花火打ち上げの準備を手伝ったゼミ生らは、丸五食堂でお昼をごちそうになった。

今瀬政司ゼミナール「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」(2014 年度)

【ゼミ生】五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、相山祐輝、太刀川健太朗(五十音順)【教員】長岡大学経済経営学部准教授 今瀬政司

オープニング直前準備とイベントの様子

- 「全日本樽みこし綱引き選手権大会」の会場が、予報通り、直前に雨で濡れてしまったため、会場を再整備する必要があった。今瀬ゼミナールでは、前日準備で雨対策として、会場を覆っておいたブルーシートをたたみ、その後、スポンジを使って地面を整備、レーキ掛けした。また、会場にテントを広げ、テーブルや椅子を設置した。
- 会場の設置は、割とスムーズに行うことができ、人数不足であるという印象はあまりうけなかった。毎年、積み重ねてきたノウハウが活きていることもあるようだ。

- オープニングイベントでは、子供たちのグループや中学生等の団体が参加し、演技を披露していた。
- 幅広い年代の人がオープニングイベントを見に来ており、賑やかであった。
- 来場者数については、昔のとちお祭の写真で見せて頂いたほどの人数には及ばないが、親子連れなど多くの人たちが会場に来ていた。

今瀬政司ゼミナール「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」(2014 年度)

【ゼミ生】五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、相山祐輝、太刀川健太朗(五十音順)【教員】長岡大学経済経営学部准教授 今瀬政司

とちお祭一日目の様子

・とちお祭のオープニングイベントの後、「全日本少年少女樽みこし綱引き選手権大会」が行われた。子供たちの部門であったが、迫力があった。
・また、例年の参加団体数は正確にはわからないが、想像していたより参加団体が多かった。

大民踊流しとみこし渡御

・とちお祭の１日目の夜には、商店街周辺の会場で「大民踊流し」と「みこし渡御」が行われた。
・「大民踊流し」は、30 以上の団体が参加し、盛り上がりを見せていた。
・「みこし渡御」は、栃尾以外の地域や他市町村からも参加者があり、他のイベントとは違った雰囲気を見せていた。

・今瀬ゼミナールでは、警備のお手伝いや「みこし渡御」の受付、祭本部での販売員のお手伝いをさせて頂いたりした。

今瀬政司ゼミナール「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」(2014 年度)

【ゼミ生】五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、相山祐輝、太刀川健太朗(五十音順)【教員】長岡大学経済経営学部准教授 今瀬政司

樽みこし綱引きとは？

・「樽みこし綱引き」とは、1965 年の第 11 回とちお祭（当時は繊維まつり）から続いているイベントである。
・現在のイベントの運営は、栃尾の商工会の青年部の方を中心に行われている。トーナメントは、少年少女（子供の部）・チャレンジシップ（初心者向け）・チャンピオンシップ（上級者向け）等がある。
・８人組のチームで樽みこしを引き合い、綱引きを行う。３ラウンドで２本先取したチームが勝利となる。

今瀬ゼミナールも樽みこしに参戦！

・とちお祭の２日目の朝から行われる「全日本樽みこし綱引き選手権大会」のチャレンジシップという部門に、今瀬ゼミナールも急遽、参加させて頂いた。
・力と力のぶつかり合いは、観客として見ていても迫力がありますが、実際に参加すると予想以上に楽しめました。
・また、樽みこし初体験の今瀬ゼミでしたが、参加前にコツなどを担当の方から教えて頂きました。

参加結果は…

惜しくも、準優勝でした…

・決勝戦で always に敗れ、惜しくも２位でした。
・しかし、関係者の方などは、非常に驚いており、良い成績を残せたと思います。

イベントを終えて。

・今瀬ゼミナールは、樽みこし綱引きに、裏方とともに、表方の参加者としても関わらせて頂いた。
・そこから見えてきたことは、樽みこし綱引きの持つ面白みでした。
・非常に激しい競技と聞いて、はじめは敷居の高さを感じていましたが、実際に参加してみると怖さよりも興奮が上回るイベントであり、もっと地元の人たち（特に我々ゼミ生のような若い世代）に、面白みを知ってもらうべきだと感じました。
・今瀬先生は、ゼミ生をなんとか勝たせてあげたいと頑張り過ぎたようで、１ヶ月間近く体の痛みが続きました。

今瀬政司ゼミナール「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」(2014 年度)

【ゼミ生】五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、相山祐輝、太刀川健太朗(五十音順)【教員】長岡大学経済経営学部准教授 今瀬政司

仁和賀行進とは

栃尾本町の行進で踊りました。

仁和賀行進とは・・・

・仁和賀行進と、とちお祭の前身である「繊維まつり」の頃から行われている、歴史の長いイベントである。
・決められたコースを練り歩き、各参加団体が、仮装をしたり、演技を披露したりして競い合う。
・繊維まつりの初期の頃は、前夜祭を含め、４日間の間、祭りが行われており、当時は前夜祭仁和賀行列、仁和賀行列と、２日間に分けて行われていた。

仁和賀行進の現状を知る

・下図の赤い線の部分を練り歩く。途中で各団体が演技を発表するポイントがきまっている。
・黄色い付箋が参加団体を表す。

・とちお祭のイベントの一つである「仁和賀行進」。
・最盛期は、15 町内以上の団体が参加していたが、今年の参加団体数は７町内と、減少傾向にある。
・来年からは、取組み方の見直しを行うという話も出ているようである。
・今瀬ゼミナールでは、参加団体（地区）のうちの一つである、栃尾本町区に焦点をあて、取材を行った。

今瀬政司ゼミナール「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」(2014 年度)

【ゼミ生】五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、相山祐輝、太刀川健太朗(五十音順)【教員】長岡大学経済経営学部准教授 今瀬政司

仁和賀行進 ～栃尾本町区の踊りに参加～

・8 月 20 日、栃尾本町区へ仁和賀行進の取材に伺った。トラックの装飾作業が行われており、町内のスタジオでは、仁和賀行進の練習を行っていた。

・全体的に見て、今瀬ゼミナールのゼミ生たちと同年代の人は少ないように見えたが、30 代ぐらいの年の若い人は多くいるように感じた。
・仁和賀行進については、栃尾本町区が最も活気があるというように聞いていたため、他の地区はどうなのであろうかということが気になった。

栃尾本町の演技内容

・マリリン・モンローからの「ジュリアナ」、「レディ・ガガ」、フィンガー5からの「学園天国」、「ウォーターボーイズ」、セーラームーン、マツケンサンバと続き、アナと雪の女王、最後に「samba de janeiro」という流れ。
・曲が変わる節目ごとに、子供たちが妖怪ウォッチの曲に合わせて前に出てきていた。

当日の様子

・ゼミ生も踊りに参加させて頂いた。参加団体数は少なく、雨が降っていたが、それぞれの団体はどこも活気があるように感じられた。

今瀬政司ゼミナール「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」(2014 年度)

【ゼミ生】五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、相山祐輝、太刀川健太朗(五十音順)【教員】長岡大学経済経営学部准教授 今瀬政司

とちお祭「大花火大会」

- とちお祭「大花火大会」は、とちお祭２日目の夜に行われるイベントである。
- 花火大会では、多くの地元住民や企業からの協賛により打ち上げが行われている。
- 中でも「千輪の会」が打ち上げるスターマインは、栃尾の四季を表現した見応えのある花火であった。
- 今瀬ゼミナールとして、大花火大会の運営を行っている「栃尾煙火協会」にご協力いただき、花火の打ち上げにかかる設営・打ち上げ・片付けの作業に参加させて頂いた。

準備日の過程

- 今瀬ゼミナールがとちお祭「大花火大会」の準備に参加したのは、祭前日の準備日からであった。
- 他のイベントと違い、準備当日に「栃尾煙火協会」の方と始めてお会いしたため、ゼミ生たちは若干の緊張もあったが活動を共にし、非常に多くのお話を伺えた。
- 花火の打ち上げに係る一連の作業に関わることができ、その準備の様子や花火の裏側に迫った記録をまとめることが出来た。

防火水槽の準備

打ち上げ会場本部テントの様子

昼食での様子

丸五食堂

- 花火の打ち上げ準備のため、防火水槽に水を貯める作業（上写真）。
- 約 600 リットルの水を山の上に上げ非常時の備えを行う。
- また、防火水槽だけでなく、噴霧器の手配や落ち葉の処理などで、火災への対策はぬかりなく行われている印象であった。
- また、打ち上げの指示を出すためのテントの設営や看板の設置等を行った。

- 大花火大会でのスタッフの食事などは、花火打ち上げ現場付近の「丸五食堂」にて行われた。
- ここでの食事は、恒例になっているようで、「花火の打ち上げに、地元や付近の方との関り合いは重要である」との事で、付近の食堂などを利用している面もあるとのこと。

今瀬政司ゼミナール「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」(2014 年度)

【ゼミ生】五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、相山祐輝、太刀川健太朗(五十音順)【教員】長岡大学経済経営学部准教授 今瀬政司

当日の流れ

観客席側の会場設営時の写真

・花火当日の準備は、観客席側の会場設営から始まった。仁和賀行進が終了後、撤収作業を終わらせ、市の倉庫へ向かった。
・会場設営の機材を栃尾東小学校に搬入し、「大花火大会」の本部会場設営を行った。
・観客席側の関係者席として、テントとテーブル・椅子の設営を行った。
・その後は、「丸五食堂」に打合わせに向かった。

打ち合わせ

・今回の「大花火大会」では、今瀬ゼミナールより３名（今瀬先生、澤井、太刀川）が打ち上げ現場にて、取材を行わせて頂くこととなった。
・花火の打ち上げ現場は危険が伴うため、参加者はヘルメットの装着が必須であった。

事前の打ち合わせの様子

高見氏による説明

ゼミ生がヘルメットを装着している様子

打ち上げ開始

とちお祭での花火(上)
打ち上げの瞬間の写真(左)

その後

・花火打ち上げ現場に向かった３名については、その準備等で「栃尾煙火協会」の方などと多く関わることができた。
・その中で、栃尾煙火協会の前会長である高見氏から、とちお祭「大花火大会」や栃尾煙火協会、花火業界のことなどついて、多くのお話を伺うことができた。栃尾の地域づくりなどのことも話して頂いた。
・今後とも、大花火大会の反省会などにも参加予定であり、報告書などに反映していく。

今瀬政司ゼミナール「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」(2014 年度)

【ゼミ生】五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、相山祐輝、太刀川健太朗(五十音順)【教員】長岡大学経済経営学部准教授 今瀬政司

片付け日の様子

・8 月 25日、とちお祭の後片付けのお手伝いをした。この日は、大学の補講期間であったため、ゼミ生やボランティア学生の参加が少なかった。
・ゼミ生の太刀川、澤井や今瀬先生は、花火打ち上げ場所の片付けをお手伝いした。須田は祭のメイン会場などの片付けをお手伝いした。
・暗い時にはわからなかったが、明るい時に花火打ち上げ後の場所を見てみると、花火の殻や筒を覆っていた銀紙のかけらがあちこちに散乱していた。

・この日、他の片付け作業は、防火水槽をたたんだり、発電機を運んだり、打ち上げの本部テントをたたむといったものだった。
・打ち上げ会場の花火の筒が置いてあった地面は深く窪んでいた。

・片付け後には、栃尾煙火協会の方々に、お昼ご飯をごちそうして頂いた。また、煙火協会の高見さんには、その後に栃尾の温泉を案内して頂いたり、ご自宅で以前の花火の様子を学ばせて頂いたりと、大変お世話になった。

今瀬政司ゼミナール「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」(2014 年度)

【ゼミ生】五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、相山祐輝、太刀川健太朗(五十音順)【教員】長岡大学経済経営学部准教授 今瀬政司

今瀬政司ゼミナールの「とちお祭」への提言

提言１.「とちお祭」で準備・運営・片付けなどを行う「裏方さん」の大変さ、大事さ、面白さが地元で再評価されるような仕掛けをして、「裏方さん」（特に、若い人）が増えるようにしていくこと。

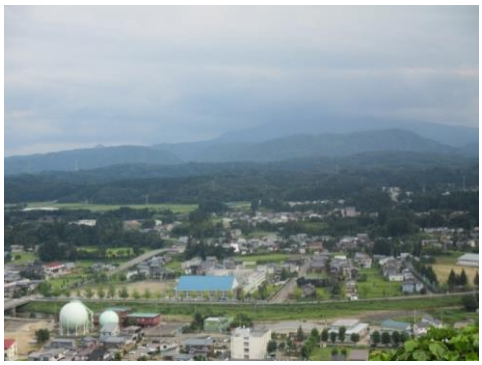
提言２. とちお祭の「全日本樽みこし綱引き選手権大会」を栃尾以外の地域の祭において出前開催すること。それにより、樽みこし綱引きの魅力を栃尾内外に波及的に広く知ってもらうこと。

提言３. とちお祭の会場で、地元商店や料理上手な家庭の方などの力を借り、地元の名物料理や家庭料理などの屋台を多く出すようにして、域外からの来場者の楽しみを増やすこと。

「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」を通じて気づいたこと

「大民踊流し」や「みこし渡御」の時に、食べ物の屋台を出すと、より祭りの雰囲気が出るかも･･･　ｂｙ五十嵐

裏方の仕事はとにかく大変で、少しでも裏方を担う人がいたら、負担が減ると思う。
ｂｙ相山



交通機関の利便性がもう少しよければ、栃尾に立ち入るのではないだろうか
ｂｙ五十嵐、相山

若い人が少なく、今後も過疎化が進んでいく恐れが十分にあるように思います。
ｂｙ澤井

「みこし渡御」のように、他のイベントも幅広い地域から参加団体を募っていけば、祭も賑やかになるし、多くの人に「とちお祭」を知って頂くことができ、栃尾地域がどういう場所なのか知って頂くことにもつながっていくのではないでしょうか？
ｂｙ澤井

全盛期はもっと賑やかであったのでしょうが、「とちお祭」は想像以上に活気があるように思いました。「大民踊流し」は多くの人数が参加していましたし、「みこし渡御」も栃尾以外の団体が参加していたことには驚きました。　ｂｙ澤井、須田

「とちお祭」全体を通して、私たち今瀬ゼミ生に近い年代が少なく感じた。現地の 25 歳位までの人たちで、１つの企画を試みたりすれば、今年とは違った盛り上がりがあったりで面白いと思う。　ｂｙ須田

同じ人ばかり動いていたので人手不足なのでは？　ｂｙ五十嵐

若い（18～25 歳位）現地のボランティアが出てくるようになるといいと思う。未来に繋がるとも思うし、新しいノウハウが出てくるのでは･･･　ｂｙ須田

「全日本樽みこし綱引き選手権大会」では、地元の学生（中・高校生）などに声をかけて参加を促したりすれば、参加者が増えてゆくのでは？　ｂｙ太刀川

学校法人 中越学園 長岡大学

「地（知）の拠点整備事業」（大学 COC 事業）
長岡地域＜創造人材＞養成プログラム

文部科学省 地(知)の拠点

【パネル 19】(C)2014/10/25 今瀬ゼミ

今瀬政司ゼミナール「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」(2014 年度)

【ゼミ生】五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、相山祐輝、太刀川健太朗(五十音順)【教員】長岡大学経済経営学部准教授 今瀬政司

「とちお祭」が長岡大学悠久祭にやって来る！
～長岡・栃尾地域を元気にするために～

必見！驚き！大笑い！「栃尾本町仁和賀隊パフォーマンス」

■主催：今瀬ゼミナールと栃尾の方々
■日時：2014 年10月25日（土）12:45～13:00
長岡大学玄関広場
■内容：栃尾地域で 60 年の歴史を持つ「とちお祭」。その最大の呼び物が「仁和賀(にわか)行進」(踊り)。栃尾住民の方々25 名ほどがご来校下さり、ゼミ生やボランティア学生たちと一緒に、仁和賀行進の 60 周年記念、合同パフォーマンスを行います。テーマは、「祝 60 周年とちお祭 本町 Returns ～ありのままで」。「とちお祭」と栃尾地域の素晴らしさを見て、驚いて下さい。踊りへの乱入、大歓迎！

仁和賀行進の様子

とちお祭で裏方さんになりました！パネル展「とちお祭の裏側珍百景」

■主催：今瀬ゼミナール
■日時：2014 年 10 月 25 日（土）、26 日（日）
10:00～17:00　長岡大学 242 教室
■内容：「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」事業での活動成果を報告します。
（①裏方活動、②表方活動、③記録・調査・まとめ、④情報発信・ＰＲ・提言）。
裏方だからこそ分かる「とちお祭」の本当の姿（素晴らしさ）と、栃尾地域の良さ・課題を報告し、今後への提言を行います。

今瀬ゼミナールの情報発信活動

2014 年度の今瀬ゼミナールでは、「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」と題しゼミナール活動を行っている。8 月 23 日・24 日に行われた「とちお祭」までは、裏方での活動参画と取材・調査などを中心に活動を行ってきた。今後の活動として、10 月 6 日にまとめた中間報告書などを追加取材・調査等で改善を図り、作成したパネルの各所展示、ホームページ掲載、各所での成果発表などを行い、より多くの方々に「とちお祭」と栃尾地域のことを知ってもらうための情報発信活動を行っていく予定である。

地域活性化プログラムの成果発表会を行います！

入場無料

日時：2014 年度１２月６日（土）13：00～17：00

会場：ホテルニューオータニ長岡「ＮＣホール」
定員：250 名　申込締切は 12 月１日（月）

お問合せ・お申込み
FAX：0258-39-9566　TEL：0258-39-1600(代)
E-mail：porev@nagaokauniv.ac.jp
〒940-0828 長岡市御山町 80-8
長岡大学 教務学生課地域活性化プログラム担当 恩田

学校法人 中越学園 長岡大学

「地（知）の拠点整備事業」（大学COC事業）
長岡地域＜創造人材＞養成プログラム

文部科学省 地(知)の拠点

【パネル 20】 (C) 2014/10/25 今瀬ゼミ

今瀬政司ゼミナール「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」(2014 年度)

【ゼミ生】五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、相山祐輝、太刀川健太朗(五十音順)【教員】長岡大学経済経営学部准教授 今瀬政司

「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」事業の足跡

月日			今瀬ゼミナールの主な活動内容（2014年4月～10月）	学外
4月	14日	(月)	定例ゼミ授業（企画書立案等）	
	21日	(月)	定例ゼミ授業（企画書立案等）	
	28日	(月)	定例ゼミ授業（企画書立案等）	
5月	12日	(月)	定例ゼミ授業（企画書立案等）	
	19日	(月)	定例ゼミ授業（企画書立案等）	
	21日	(水)	長岡市政策企画課・市民協働推進室、NPO法人市民協働ネットワーク長岡に協力依頼（今瀬）	市本庁
	26日	(月)	定例ゼミ授業（企画書立案等）	
	29日	(木)	長岡市政策企画課・市民協働推進室・地域振興戦略部に協力依頼（今瀬）	市本庁
6月	2日	(月)	定例ゼミ授業（企画書立案等）	
	3日	(火)	長岡市地域振興戦略部に事前取材・企画相談	市本庁
	9日	(月)	長岡市栃尾支所地域振興課に事前取材・企画相談	栃尾
	10日	(火)	ゼミ打合せ会（企画書立案等）	
	16日	(月)	長岡市栃尾支所商工観光課（荒木様にアドバイザー依頼）と山の暮らし再生機構栃尾サテライトに事前取材・企画相談	栃尾
	17日	(火)	とちお祭「仁和賀部会」に出席＆取材	栃尾
	23日	(月)	長岡市市民協働推進室（安達様にアドバイザー依頼）に事前取材・企画相談	市本庁
	30日	(月)	定例ゼミ授業（とちお祭の裏方参画の進め方検討等）	
7月	4日	(金)	とちお祭「結団式」に出席＆取材	栃尾
	7日	(月)	定例ゼミ授業（とちお祭の裏方参画の進め方検討等）	
	14日	(月)	定例ゼミ授業（とちお祭の裏方参画の進め方検討等）	
	16日	(水)	栃尾観光協会と打合せ会（スケジュール・役割分担等調整）	栃尾
	21日	(月)	定例ゼミ授業（とちお祭の裏方参画の進め方検討等）	
	25日	(金)	とちお祭「仁和賀部会」に出席＆取材	栃尾
	28日	(月)	定例ゼミ授業（とちお祭の裏方参画の進め方検討等）	
	28日	(月)	栃尾本町区のとちお祭「仁和賀行進」の事前準備＆取材	栃尾
8月	6日	(水)	とちお祭の事前準備（会場と街中の設営等）＆取材	栃尾
	6日	(水)	とちお祭「全日本樽みこし綱引き選手権大会」説明会に出席＆取材	栃尾
	18日	(月)	とちお祭「安全祈願祭」に出席＆取材	栃尾
	19日	(火)	とちお祭の事前告知（長岡駅前アオーレにてチラシ配布等）＆取材	栃尾
	20日	(水)	栃尾本町区のとちお祭「仁和賀行進」の練習会出席＆取材	栃尾
	21日	(木)	保健所検査（現地不参加）	
	22日	(金)	とちお祭の前日準備（会場と花火打上げ場の設営等）＆取材	栃尾
	23日	(土)	とちお祭当日（裏方運営＆取材）	栃尾
	24日	(日)	とちお祭当日（裏方運営＆樽みこし綱引き参加＆仁和賀行進参加＆取材）	栃尾
	25日	(月)	とちお祭の後片付け（会場と花火打上げ場の片付け）＆取材	栃尾
9月	3日	(水)	ゼミ打合せ会（報告書作成＆パワーポイント資料作成）	
	10日	(水)	ゼミ打合せ会（報告書作成＆パワーポイント資料作成）	
	17日	(水)	ゼミ打合せ会（報告書作成＆パワーポイント資料作成）	
	24日	(水)	ゼミ打合せ会（報告書作成＆パワーポイント資料作成）	
10月	1日	(水)	ゼミ打合せ会（報告書作成＆パワーポイント資料作成＆パネル作成）	
	2日	(水)	ゼミ打合せ会（報告書作成＆パワーポイント資料作成＆パネル作成）	
	6日	(月)	長岡市市民協働推進室で中間レビュー（中間報告書＆パワーポイント資料提出）、長岡市政策企画課と地域戦略部に報告	市本庁
	8日	(水)	ゼミ打合せ会（報告書作成＆パワーポイント資料作成＆パネル作成）	
	13日	(月)	定例ゼミ授業（報告書・パネル等作成打合せ、第2回中間レビュー練習）	
	14日	(火)	ゼミ打合せ会（報告書作成＆パワーポイント資料作成＆パネル作成）	
	15日	(水)	ゼミ打合せ会（報告書作成＆パワーポイント資料作成＆パネル作成）	
	16日	(木)	ゼミ打合せ会（報告書作成＆パワーポイント資料作成＆パネル作成）	
	20日	(月)	長岡市栃尾支所で中間レビュー（中間報告書＆パワーポイント資料提出）、栃尾観光協会に報告	栃尾
	21日	(火)	ゼミ打合せ会（パネル作成）、栃尾本町区「仁和賀行進」の打合せ	栃尾
	22日	(水)	ゼミ打合せ会（パネル作成）	
	23日	(木)	ゼミ打合せ会（パネル作成）、NPO法人フォーラム栃尾熱都にとちお祭パネル借用	栃尾
	24日	(金)	ゼミ打合せ会（パネル作成）、今瀬ゼミ作成の展示パネル等の設置	
	25日	(土)	悠久祭にてパネル展示「とちお祭の裏側珍百景」	
	25日	(土)	悠久祭にて「栃尾本町仁和賀隊パフォーマンス」	
	26日	(日)	悠久祭にてパネル展示「とちお祭の裏側珍百景」	
	27日	(月)	悠久祭でのパネル等の後片付け	
12月	6日	(土)	地域活性化プログラムの成果発表会（ホテルニューオータニ長岡）＜予定＞	

「とちお祭」が長岡大学悠久祭にやって来た！～長岡・栃尾地域を元気にするために～

今瀬ゼミと栃尾本町の方々(約25人)との合同「仁和賀隊パフォーマンス」（2014.10.25.）

長岡大学　今瀬政司ゼミナール 活動報告（2014年度）

とちお祭への裏方参画と調査・情報発信

～長岡・栃尾地域を元気にするために～

2014年12月6日
学生による地域活性化プログラム成果発表会
（会場：ホテルニューオータニ長岡）

【 今瀬ゼミ 】五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、
相山祐輝、太刀川健太朗 （五十音順）
【担当教員】長岡大学経済経営学部 准教授 今瀬政司
TEL：0258-39-1907　E-mal：imase@nagaokauniv.ac.jp

活動概要「とちお祭で裏方さんになりました！」

【活動1】長岡市栃尾の「とちお祭」に、「裏方」として参画
※企画から事前準備、直前設営、当日運営、片付けまで
【活動2】さらに、「表方」として、当日イベントにも参加
【活動3】並行して、「裏方」だからこそ分かる「とちお祭」の本当の姿を実態調査（取材、記録）して取りまとめ
【活動4】「裏方」「表方」活動と調査から分かった「とちお祭」の魅力を情報発信（誘客PR）し、課題解決策を提言
※報告書発行、パネル展示（長岡大学悠久祭、市内各所（公共施設やイベント時）、ホームページ、講演報告など
【活動5】「とちお祭」のイベントの出前開催
※「栃尾本町仁和賀隊パフォーマンス」を悠久祭で開催

事前取材とゼミ活動の企画立案（4～6月）

- ご協力機関の方々を訪問して、事前取材・相談をする。
- 何度か様々な方にアドバイスを頂くことで、企画書を何回も変更し、バージョンアップしていった。

①企画書（第1案）：「長岡駅から過疎地域 を繋ぐ」

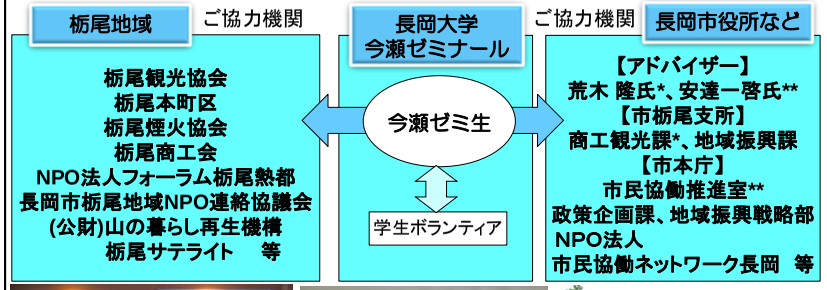
⇩ 「栃尾」に焦点を当てる！

②企画書（中間案）：「長岡駅から 栃尾地域 を繋ぐ」

⇩ 「とちお祭」と「裏方」に焦点を当てる！

③企画書（最終案）：
「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」

今瀬ゼミと地域の人々との関わり（協働）



長岡市栃尾の「とちお祭」とは

- 「とちお祭」の歴史は古く、1955年まで遡る。
  当時は「繊維まつり」と呼ばれた（1981年に現名称に）。
- 祭の多い栃尾地域でも、特に大きな祭であり、
  今年（2014年8月23・24日）で、60周年を迎えた。
- 今年の「とちお祭」のイベント内容
  ①全日本樽みこし綱引き選手権大会
  ②仁和賀（にわか）行進　③大花火大会
  ④大民踊流し　⑤みこし渡御
  ⑥ミュージックアトラクション、味のテント村等
- 詳細は、とちお祭事務局（栃尾観光協会）まで
  TEL：0258-51-1195　http://tochiokankou.jp

【裏方①】とちお祭の「結団式」、「仁和賀部会」、「樽みこし部会」への参加と取材（6～8月）

とちお祭の結団式

樽みこし部会を記録

とちお祭の「結団式」（7/4）では、参加人数の多さに驚いた。

仁和賀部会

「仁和賀部会」では、「参加団体数が昔に比べて大幅に減少」、「来年もやれるのか」、「来年は新たな取組みをすべきだ」などの意見が出た。
栃尾地域の過疎化の現実を知った。

【裏方②】祭の準備と片付と取材（事前・当日前後）

祭の提灯づけ

祭ののぼりたて

祭3週間程前、会場周辺でPR用の提灯やのぼりなどを設置した。予算や人数がもっと多ければ、設置場所を広げられるのにと思った。

祭前日は、会場の掃除、雨よけシートがけ、テント等運搬などを行った。会場の設営は、わりとスムーズにできた。毎年、積み重ねてきたノウハウが活きているようだ。

祭の会場の設営

備品倉庫は、まさに「裏方さん」しか入ることがない場所だ。

祭の備品倉庫

祭翌日の片付けでは、テントやその他重いものを運んだり、雨で濡れた提灯などを乾かしたりした。

今瀬ゼミお薦めの「とちお祭」3大イベント

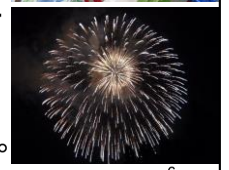
①「全日本樽みこし綱引き選手権大会」

全国でも珍しい、酒のたるを積んだみこしを使った綱引き大会です。　迫力満点！

②「仁和賀（にわか）行進」　必見！驚き！大笑い！

各地区・団体が時代や地域柄を反映した独自の出し物を行いながら街なかを練り歩く。

③「大花火大会」　山の上で美しく花開く花火！



打上場所は、全国でも珍しく、山の頂上。打上げ設営、点火合図、燃え殻回収などは（花火師のみが行う筒設置や玉点火等以外）、住民（栃尾煙火協会）が手作りで実施。

ビデオ動画へ

【裏方⑤】祭の当日の運営と取材（8/23、24）

会場をレーキがけ

直前に雨が降ったが、雨対策のおかげで、予定通り開催できた。会場を覆っておいたブルーシートをたたみ、濡れた地面をスポンジで吸い取り、レーキがけをした。雨よけ場所から、会場にテントを広げ、テーブルや椅子を設置した。

祭当日の打合せ

子供達が踊る様子を記録

昔の祭の写真で見せて頂いたほどの参加人数には及ばないが、親子連れなど多くの人たちが会場に来ていた。

「みこし渡御」は、「ほだれ様」のみこしが特徴的だ。（道祖神の一つである男根形のほだれ様（穂垂れ）は、農耕と人の実りを守る神様）広く栃尾内外から参加者があった。

祭の出店で販売員

大民謡流しで交通整理

大民踊流しは、30以上の団体が参加し、盛り上がりを見せた。

みこし渡御で参加者の受付

【裏方③】栃尾本町区の「仁和賀行進」の準備会・練習会への参加と取材（7～8月）

仁和賀行進の踊りの道具づくり

諏訪神社で準備会に参加

町内のスタジオで仁和賀行進の練習

栃尾本町区では、「仁和賀行進」の準備会・練習会が頻繁に行われていた。お手伝いの初日から地元の人は優しく対応して下さった。
地区で集まって何かやるというのはすごく、同じ地区の人との付き合いが深くなると思った。

トラックの装飾作業

地区の人たちは、今瀬ゼミ生たちと同年代の人は少ないが、30代位の若い人は多くいるように感じた。

仁和賀行進では、栃尾本町区が最も活気があると聞いていたが、他の地区はどうなのであろうかと気になった。

【裏方⑥】大花火大会の準備･打上･片付と取材

花火打上げの準備、点火の合図、燃え殻の回収など（花火師さんの作業以外）、貴重な作業経験と記録づくりをさせて頂いた。

防火水槽の設置

看板の設置

ヘルメット装着

花火点火

花火2日前、打上げ合図を出すテントや看板の設置。約600リットルの水を山の上に上げて防火水槽に入れ、落ち葉の清掃などを行った。火災など安全対策に力を入れていることを実感した。リーダーの高見さんのもと、作業を確実にこなす手際の良さが印象に残った。ただ、後継者への引継ぎが課題だと伺った。

当日、花火の筒から10m程の距離から見る打上げの音と美しさは圧巻だった。

翌日、打上げ場所周辺でたくさんの花火の燃え殻など、ごみを拾って集めた。防火水槽、テント、発電機などを片付けた。栃尾煙火協会の人数でやるには重労働だと思った。

花火の燃え殻回収

【裏方④】とちお祭の安全祈願祭への参加と取材、事前PRのチラシ配り・パネル展示（8月中旬）

とちお祭の安全祈願祭

8/19、長岡市庁舎の「アオーレ」で、とちお祭の事前PRとして、チラシ配布や紹介パネル等の展示作業などを行った。
当日、アオーレでは栃尾の子供たちが演技を発表していた。観客はその子供の親御さんたちが殆どのようで、私たちがチラシを渡した人は、とちお祭について既に知っているようであった。
今後は、とちお祭を知らない人たちにも配った方が良いと思った。

8/18、「産業交流センターおりなす」で安全祈願祭が行われた。宮司さんが来られ、厳格な雰囲気の中で執り行われた。
祭の前に安全祈願祭などが行われるのは、歴史が深い祭だからこそと思った。

祭のポスター展示

祭のチラシ配り

「とちお祭」のイベントの出前開催（PR活動）

「とちお祭」が長岡大学悠久祭にやって来た！（10月25日）
今瀬ゼミと栃尾本町(約25人)との合同「仁和賀隊パフォーマンス」

仁和賀行進の出前開催では、とちお祭の本番に比べて踊りの人数は少なかったが、本番に負けないイベントになったのではないか。

ビデオ動画へ

【表方】祭の当日イベントへの参加と取材（8/24）

樽みこしに参戦！準優勝

今瀬ゼミは、裏方としての作業とともに、「全日本樽みこし綱引き選手権大会」の初心者向けのチャレンジシップに参戦した。惜しくも準優勝！チャレンジシップでは、地元の参加団体の少なさを実感した。

樽みこし綱引きは、非常に激しい競技と聞いて、敷居の高さを感じていたが、実際に参加してみると、怖さよりも興奮が上回るイベントで、地元のもっと多くの若い世代にも、面白みを知ってもらうべきだと感じた。

栃尾本町の仁和賀行進に参加！乱舞

今瀬ゼミは、裏方作業とともに、「仁和賀行進」にも参加し、栃尾本町区の方々と一緒にパフォーマンス（ダンス・仮装等）をさせて頂いた。
楽しかった！

参加団体数が少なかったが、どこの団体も活気があり、雨の中でも見物客が多くすごいと思った。

最後に　～お礼とお祝い～

栃尾の皆様、関係機関の皆様、今瀬ゼミの活動にご支援いただき、誠にありがとうございます。

「第60回とちお祭」が盛大に開催され、改めてお祝い申し上げます。

「とちお祭」と栃尾地域の一層の発展を祈念するとともに、今後とも、栃尾地域の活性化に貢献していきます。　（今瀬ゼミ一同）

山上の花火打上げ会場から見る栃尾の町並み

今瀬ゼミ

今瀬政司研究室ホームページにて、「とちお祭」関連情報を発信中！
http://sicnpo.jp/imase-nagaokauniv/
（ゼミ活動の報告書、展示パネル、講演資料など掲載しています。）

今瀬ゼミからの「とちお祭」への3つの提言

【提言1】

「とちお祭」で準備・運営・片付けなどを行う「裏方さん」の大変さ、大事さ、面白さが地元で再評価されるような仕掛けをして、「裏方さん」（特に若い人）が増えるようにしていくこと。

【提言2】

とちお祭の「全日本樽みこし綱引き選手権大会」を栃尾以外の地域の祭において出前開催すること。それにより、樽みこし綱引きの魅力を栃尾内外に波及的に広く知ってもらうこと。

【提言3】

とちお祭の会場で、地元商店や料理上手な家庭の方などの力を借り、地元の名物料理や家庭料理などの屋台を多く出すようにして、域外からの来場者の楽しみを増やすこと。